

(別表2)

作業療法学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
人文科学									
心理学	30						30	2	
倫理学	15						15	1	
社会科学									
社会学	15						15	1	
教育学	15						15	1	
人間関係論	15						15	1	
自然科学									
数学入門	15						15	1	
物理学		15					15	1	
化学	15						15	1	
生物学	30						30	2	
統計学		15					15	1	
保健体育	30						30	1	
医学英語		30					30	2	
基礎分野計	180	60					240	15	

2 専門基礎分野

人体の構造と機能及び心身の発達									
解剖学									
解剖学Ⅰ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅰ (2)	15						15	1	
解剖学Ⅱ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅱ (2)	15						15	1	
解剖学Ⅲ (1)	15						15	1	
解剖学Ⅲ (2)	15						15	1	
生理学									
生理学 (1)	30						30	2	
生理学 (2)		30					30	2	
生理学実習 (1)	30						30	1	
生理学実習 (2)		30					30	1	
運動学									
運動学 (1)	30						30	2	
運動学 (2)		30					30	2	
運動学実習 (1)	30						30	1	
運動学実習 (2)		30					30	1	
人間発達学		30					30	2	
小計	210	150					360	20	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進									
臨床心理学		30					30	2	
一般臨床医学		30					30	2	
内科学			30				30	2	
脳神経外科学			30				30	2	
整形外科 (1)			30				30	2	
整形外科 (2)				15			15	1	
神経内科学 (1)			30				30	2	
神経内科学 (2)				15			15	1	
精神医学 (1)			30				30	2	
精神医学 (2)				15			15	1	
小児科学			30				30	2	
病理学				30			30	2	
小計		60	180	75			315	21	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
障害福祉論	15						15	1	
リハビリテーション概論 (1)	15						15	1	◎
リハビリテーション概論 (2)		30					30	2	◎
公衆衛生学			15				15	1	
小計	30	30	15				75	5	
専門基礎分野計	240	240	195	75			750	46	

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	2	◎
基礎作業学		30					30	2	
基礎作業療法学実習Ⅰ	30						30	1	
基礎作業療法学実習Ⅱ	30						30	1	
基礎作業療法学実習Ⅲ	30						30	1	
レクリエーション療法演習			30				30	1	◎
小計	120	30	30				180	8	
作業療法管理学									
作業療法管理学				30			30	2	
小計				30			30	2	
作業療法評価学									
作業療法評価学概論	30						30	2	
作業療法評価学（1）		30					30	2	
作業療法評価学（2）			30				30	2	◎
作業療法評価学実習（1）		30					30	1	◎
作業療法評価学実習（2）			30				30	1	
小計	30	60	60				150	8	
作業療法治療学									
作業治療学Ⅰ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅰ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅱ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅱ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅲ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅲ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅳ（1）			60				60	4	◎
作業治療学Ⅳ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅴ（1）			30				30	2	◎
作業治療学Ⅴ（2）				30			30	2	◎
作業治療学Ⅵ				30			30	2	◎
作業治療学Ⅶ				30			30	2	
作業治療学Ⅷ				30			30	2	
臨床実習技能評価Ⅰ		30					30	2	
臨床実習技能評価Ⅱ				30			30	2	
臨床実習技能評価Ⅲ（1）					30		30	2	
臨床実習技能評価Ⅲ（2）						30	30	2	
小計		30	270	270	30	30	630	42	
地域作業療法学									
地域作業療法学（1）			30				30	2	
地域作業療法学（2）				30			30	2	
小計			30	30			60	4	
臨床実習									
臨床実習Ⅰ（1）	90						90	2	
臨床実習Ⅰ（2）		90					90	2	
臨床実習Ⅰ（3）			45				45	1	
臨床実習Ⅱ				180			180	4	
臨床総合実習Ⅰ					360		360	8	
臨床総合実習Ⅱ						360	360	8	
小計	90	90	45	180	360	360	1125	25	
専門分野計	240	210	435	510	390	390	2175	89	

4 選択必修科目

スタディ・スキルズ(1)	15						15	1	
スタディ・スキルズ(2)		15					15	1	
スポーツ・レクリエーション		15					15	1	
レクリエーション概論		15					15	1	◎
障害者スポーツ論		15					15	1	◎
作業療法理論概論				15			15	1	
補完代替療法概論				15			15	1	
卒業論文						15	15	1	
作業療法総合演習						45	45	3	
小計	15	60		30		60	165	11	
総合計	675	570	630	615	390	450	3330	161	
年次合計	1245		1245		840		3330	161	

1単位の授業時間は、講義・演習にあっては15～30時間、実験・実習・実技にあっては30～45時間とする。
臨床実習にあっては1単位45時間とする。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
心理学	田中 暁生	1	2	前期	必修

◇講義概要

「こころ」の問題を考えるための基本的視座を学ぶ。

◇到達目標

- ①学問および科学としての心理学の位置づけや方法論を理解する。
- ②心理学の諸分野の基礎知識を習得する。
- ③人間（および動物）の心と行動を客観的かつ論理的に分析して理解しようとする姿勢を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	心理学とは？	講義	
第2回	心の進化：心と行動の系統発生・種間比較	講義	
第3回	感覚と知覚①：感覚の分類，各種の感覚についての基礎知識	講義	
第4回	感覚と知覚②：視知覚の基礎知識を通して心と脳の不思議にせまる	講義	
第5回	記憶①：記憶の過程（段階）と分類，記憶の測定方法	講義	
第6回	記憶②：忘却と記憶障害，記憶と脳	講義	
第7回	学習①：古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）	講義	
第8回	学習②：道具的条件づけ（オペラント条件づけ）	講義	
第9回	性格：性格に関する理論，性格の測定方法	講義	
第10回	情動・感情：情動・感情に関する理論，情動・感情と認知の関係	講義	
第11回	社会的認知：印象形成，対人認知	講義	
第12回	脳と心：脳の構造，脳と心（行動）の関係	講義	
第13回	心の発達①：乳児期～児童期の発達	講義	
第14回	心の発達②：青年期～老年期の発達	講義	
第15回	試験・まとめ	講義	

評価方法	☒ 試験（50%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（50%） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	授業で配布するプリントを基本とする。
参考図書	はじめて出会う心理学 第3版 （有斐閣アルマ）
留意事項	参考図書や配布された講義資料・課題などを利用して，予習・復習を行うこと。また，各回の授業で出題する小課題（小テスト）は適宜返却するとともに，誤解や不正解の多かった問題については授業内で解説するので，理解に努め，疑問点を解消すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
倫理学	石毛 弓	1	1	前期	必修

◇講義概要

道徳、倫理の本質、起源、発達等の基本を学ぶ。医療倫理を含む。

◇到達目標

・倫理という考えの基礎を理解し、説明することができる ・倫理という考えの医療における必要性を理解し、説明することができる ・自分と他人の価値観の違いを理解したうえで、自分の考えを述べるすることができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	倫理学の基礎・価値観の差異を理解し共有する	講義	グループワークを適宜行う
第2回	功利主義の基礎・幸福について考える	講義	グループワークを適宜行う
第3回	生命倫理を考える1・職業倫理について	講義	グループワークを適宜行う
第4回	生命倫理を考える2・自己決定権について	講義	グループワークを適宜行う
第5回	生命倫理を考える3・死について	講義	グループワークを適宜行う
第6回	応用倫理学・情報倫理を中心に	講義	グループワークを適宜行う
第7回	倫理学と価値観のふりかえり・全体のまとめ	講義	グループワークを適宜行う
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 40 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	なし
参考図書	授業中に適宜紹介
意 事 項	講義の前後に予習復習を行うこと。内容は授業内で指示する。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
社会学	南園 節教	1	1	前期	必修

◇講義概要

社会学の基礎的な用語ひとつ、「人間関係」と「人間関係の諸相」について、対面で、講義をします。
--

◇到達目標

学生は、私たちの日々の暮らしの中の「人間関係の諸相」にふれることで、学問のひとつの領域としての「日常」を認識します。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	社会学で学ぶこと 人間関係を通して、社会を理解する	講義	
第 2 回	社会学で学ぶこと 社会学が誕生したころのフランス	講義	
第 3 回	研究方法としての調査	講義	
第 4 回	日本に影響を与えたアメリカの社会学者	講義	
第 5 回	仕事をするために、資格を取得するために	講義	
第 6 回	文字で伝えること、伝わること	講義	
第 7 回	私たちが安全な日々を送るために	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	「日常の社会学」(南園節教 著)
参考図書	文楽、歌舞伎、オペラ、クラシック、演劇、映画、テレビ、読書 等の資料を提供する
留意事項	テキストを読んでおく (予習 15 分) 又は、テキストのその日の量を読む (復習 15 分)

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
教育学	山崎 洋介	1	1	前期	必修

◇講義概要

教育の目的、本質、方法、及び制度、行政等の基礎を学ぶ。

◇到達目標

本講義は、日本の教育について、教育制度をはじめとした基礎的な知識を身につけるとともに、さまざまな事例を通し、今日の日本の教育が直面する問題・課題を多面的に捉える視点を養うことを目標とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 教育の目的と意味	講義	
第2回	登校拒否① なぜ増えているのか	講義	
第3回	登校拒否② どうしたら減らせるか	講義	
第4回	学力 学歴競争と学力テスト政策	講義	
第5回	いじめ① いじめとは何か	講義	
第6回	いじめ② なくすにはどうしたらよいか	講義	
第7回	インクルーシブ教育と特別支援教育	講義	
第8回	試験とまとめ	講義	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (提出物 30 %)
------	--

教科書	プリント配布
参考図書	講義の中で紹介
留意事項	本講義の構成は上記の通りである。しかし、受講生の興味関心に沿って、その内容を多少変更する可能性がある。講義後、必ず、60分の復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間関係論	池田 沙弥香	1	1	前期	必修

◇講義概要

小集団の法則性を追求し、その原理を利用者や他職種とのコミュニケーションに実際に適用する技術を学ぶ。

◇到達目標

- ・人間性を高め、ヒトとして自分を成長させる素地を養うことを目的とする
- ・自己肯定感の高い、心身共に健康な医療者（対人援助者）となるために必要な視点を養うことができる
- ・主体性をもって行動できる、自律した医療者（対人援助者）となるために必要なスキルを獲得できる
- ・基本的な医療技術者としてのコミュニケーション力を身につけた医療者（対人援助者）としての自覚を持つことができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	体験を通してコミュニケーションを考える	講義	
第2回	PT/OTを目指すあなたへ	講義	
第3回	自分を理解しよう	講義	
第4回	コミュニケーション力を育もう（コンパニオンアニマル：犬参加）	講義	
第5回	自律した自分になろう	講義	
第6回	社会人のマナーとしてのコミュニケーション	講義	
第7回	臨床で役立つコミュニケーションスキル	講義・演習	
第8回	試験	講義	

評価方法	■定期試験（70 %） □実技試験（ %） ■演習評価（10 %） □小テスト（ %） ■レポート（10 %） ■その他（10 %）
------	---

教科書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること ※第1～7回の振り返りシート記入を通して授業内容の復習をすること 提出点: (その他 10%)

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
数学入門	中園 正吾	1	1	前期	必修

◇講義概要

初歩的な四則計算の確認と方程式や関数の扱いを学ぶ。

◇到達目標

1. 作業療法に必要な（物理学、統計学を理解するための）数学について理解する。 2. 計算機を用いずに計算する力を養う。 3. 答えではなく、計算過程（思考過程の説明）であることを理解し、習慣づけることができる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、四則演算	講義	
第2回	1次方程式	講義	
第3回	比の計算	講義	
第4回	平方根、関数	講義	
第5回	図形	講義	
第6回	ベクトル	講義	
第7回	速度・加速度	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	プリント配布。 物理学の教科書（川島圭司：PT/OT 国家試験対策ワークブック 計算問題（医歯薬出版））
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	各回の授業内容について予習すること。また、前回授業内容の復習をしてもらうこと。 毎回実施する小テストは返却するので活用して理解を深めること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
物理学	中園 正吾	1	1	後期	必修

◇講義概要

運動学の基礎として力学に重点をおいて学習し、科学的思考を身につける。

◇到達目標

1. 作業療法における力学の意義を説明できる。 2. 人体を含めた身の回りの運動について、基礎的な法則と理論的な現象を理解できる。 3. 計算機を用いずに、計算（関数・数式）する力を身につける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、四則演算、比の計算	講義	
第2回	三角関数、速度と加速度	講義	
第3回	力と仕事、ベクトル	講義	
第4回	てこの計算	講義	
第5回	重心	講義	
第6回	滑車と輪軸、回転運動のトルクと仕事率（パワー）	講義	
第7回	まとめ（運動強度、神経伝導速度、その他の計算、基本統計量、四分表）	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 80 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） □小テスト（ %） □レポート（ %） ■その他（ 練習問題 20 %）
------	--

教科書	PT/OT 国家試験対策ワークブック 計算問題（医歯薬出版）
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	前期「数学入門」を復習しておくこと。また、前回授業内容の復習をしておくこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
化学	井手 武	1	1	前期	必修

◇講義概要

物質の成分組織、構造、生成、分解等の基礎を学ぶ。

◇到達目標

『自然』と『いのち』をテーマとし、身近な物質や現象を見つめる化学、そして科学の眼差しを培う。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	化学知識の自己評価としてショートテスト実施、解答と解説	講義	
第2回	ビデオ『モデルで考える』、『紙が燃える』と『ヒトが生きている』の共通点は？	講義	
第3回	原子、分子、無機化合物と有機化合物、ビデオ『化学結合』	講義	
第4回	ビデオ『測る』	講義	
第5回	栄養の化学を考える	講義	
第6回	身体の中の化学を考える ビデオ『高分子化学合物』	講義	
第7回	レポート発表会	講義	
第8回	レポート発表会、まとめ	講義	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☒ レポート（ 60 %） ☒ その他（授業中口頭試問 20 %）
------	---

教科書	「食べられる」科学実験セレクション（SB クリエイティブ）
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業の前後に予習・復習を行うこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生物学	松本 英樹	1	2	前期	必修

◇講義概要

生命学／生命科学の学習において、生命（いのち）を維持するしくみを学修する。

◇到達目標

「生命（いのち）を維持するしくみ」を学修し、「ヒトが活着している」ことから「自分の存在」を認識し、「生命（いのち）の大切さ」が理解できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	生命と生物学・生命体のつくりとはたらき・生命の進化と多様性（序章・第1章・第8章）	講義	
第2回	生命体のつくりとはたらき・生体維持のエネルギー（第1・2章）	講義	
第3回	生体維持のエネルギー（ATP合成）（第2章）	講義	
第4回	生体維持のエネルギー（同化/異化作用）（第2章）	講義	
第5回	生命体のつくりとはたらき・刺激の受容と行動（能動輸送・筋収縮）（第1・7章）	講義	
第6回	刺激の受容と行動（神経系と感覚器系）（第7章）	講義	
第7回	個体の調節（内分泌系と自律神経系）（第6章）	講義	
第8回	個体の調節（呼吸器系・消化器系・循環器系・泌尿器系）（第6章）	講義	
第9回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（メンデル遺伝・ヒトの遺伝）（第4章）	講義	
第10回	細胞の増殖とからだのなりたち・生殖と発生（体細胞分裂・減数分裂）（第3・5章）	講義	
第11回	ハツカネズミの解剖（呼吸器系・循環器系・消化器系・内分泌系・尿生殖器系）	講義	
第12回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（DNA/RNAの構造・DNA複製）（第4章）	講義	
第13回	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（転写・翻訳）（第4章）	講義	
第14回	生物学講義のまとめ	講義	
第15回	直前試験対策（30分）／定期試験（60分）	講義、試験	

評価方法	☒ 試験（80%） ☐ 実技試験（%） ☐ 演習評価（%） ☒ 小テスト（20%） ☐ レポート（%） ☐ その他（%）
------	--

教科書	系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版（医学書院）
参考図書	①WEB 玉塾「生物／解剖生理」 https://www.webtamajuku.com/ ②看護 roo「解剖生理をおもしろく学ぶ」 https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2348
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
統計学	中園 正吾	1	1	後期	必修

◇講義概要

統計学の基本的な考え方を理解した上で、実際に各種の検定法を利用した演習を通して学ぶ。
--

◇到達目標

1. 作業療法における統計の意義を説明できる。 2. 各種データとその統計処理の関連性を理解できる。 3. 計算ソフト Excel を用いた計算（関数・数式）や統計処理（データ分析）に対する技能を身につける。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション Excel の復習、データ収集	講義・演習	PC 教室
第2回	記述統計学 (1) データと尺度、データと情報	講義・演習	PC 教室
第3回	記述統計学 (2) 代表値、散布値	講義・演習	PC 教室
第4回	記述統計学 (3) 度数分布表とグラフ	講義・演習	PC 教室
第5回	推計統計学 (1) 母集団と標本	講義・演習	PC 教室
第6回	推計統計学 (2) 母平均と母比率の推定	講義・演習	PC 教室
第7回	推計統計学 (3) 平均値の検定、まとめ	講義・演習	PC 教室
第8回	試験	試験	PC 教室

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) ■演習評価 (20 %) □小テスト (%) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	プリント配布
参考図書	講義の中で適宜紹介する。
留意事項	毎回 Microsoft Excel を使った演習を行います。 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。 試験はパソコンを使用し、その結果を回答用紙に記入してもらう形式で行います。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
保健体育	中西 信之	1	1	前期	必修

◇講義概要

スポーツを通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーション活動の方法を学ぶ。 また、活動の中で障がい者スポーツの理解を図ることを目的とする。

◇到達目標

スポーツを通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーション活動の方法を修得する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義演習	学内
第2回	レクリエーション実技	講義演習	学内
第3回	健康観について	講義	学内
第4回	1日の必要消費量体感トレーニング	演習	学外※
第5回	体力年齢チェック1(急歩)	講義演習	学外※
第6回	体力年齢チェック2(室内種目)	講義演習	学内
第7回	高齢者・障がい者のスポーツ(ペタンク)	演習	学外※
第8回	高齢者・障がい者のスポーツ(グランドゴルフ)	演習	学外※
第9回	高齢者・障がい者のスポーツ(スカイクロス)	演習	学外※
第10回	野外スポーツ(クップ)	演習	学外※
第11回	障がい者スポーツ(シッティングバレー)	講義演習	学内
第12回	スポーツ・レクリエーション(キャッチングザスティック他)	講義演習	学内
第13回	スポーツ・レクリエーション(ロープジャンプ)	演習	学内
第14回	スポーツ・レクリエーション(スポーツテンカ)	演習	学内
第15回	評価レポート試験	演習	教室

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☒ その他 (50 %)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂似て実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます その他後期にレク修了資格授業あり(費用 1,300 円)

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
医学英語	福本 洋	1	2	後期	必修

◇講義概要

専門分野で必要な英語の基礎を学ぶ。

◇到達目標

作業療法に関わる内容と有用な用語を習得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション Starting Out	講義	
第 2 回	1. The Four Keys to Successful Caregiving	講義	
第 3 回	2. Using Mobility and Lifting Aids	講義	
第 4 回	3. Helping People with Meals	講義	
第 5 回	4. Helping People Use the Toilet	講義	
第 6 回	5. Helping People with their Bath	講義	
第 7 回	6. Helping People with Dressing and Grooming	講義	
第 8 回	7. Helping People Change Their Position	講義	
第 9 回	8. Helping with Recreational Activities	講義	
第 10 回	9. Helping People to Communicate	講義	
第 11 回	10. Helping People Suffering from Disease and Illness	講義	
第 12 回	11. Helping Children to Develop	講義	
第 13 回	12. Helping with Domestic Duties in a Client's Home	講義	
第 14 回	Review 対話発表	講義	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☒ その他 (授業中の活動及び発表 20 %)
------	---

教科書	A Helping Hand -Comprehensive English for caregivers- (南雲堂)
参考図書	
留意事項	事前に単語の意味などを辞書で調べ予習しておくこと。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅰ（Ⅰ）	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の構造の基礎知識を養う。 人体の構造の骨格、関節、靱帯の関連性を学ぶ。

◇到達目標

骨格の構成（主として体幹）の骨名、その連結の役割である関節、靱帯を統合的に理解習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	解剖学総論	講義	
第 2 回	骨格総論、関節靱帯総論	講義	
第 3 回	頭蓋骨	講義	
第 4 回	脊柱	講義	
第 5 回	胸郭、上肢の骨（上肢帯の骨）	講義	
第 6 回	頭蓋の連結	講義	
第 7 回	脊柱と頭蓋および胸部の連結	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版（医学書院）
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和 5 年度 作業療法学 学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅰ (2)	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体の構造の循環器系の形態について学ぶ。

◇到達目標

人体の基本構造の心臓、血管系の走行、リンパ系の走行と機能を理解習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	循環器系の総論 心臓	講義	
第 2 回	体循環の動脈系 上行大動脈、大動脈、胸大動脈	講義	
第 3 回	腹大動脈	講義	
第 4 回	体循環の静脈系の総論 特殊循環系	講義	
第 5 回	上大静脈、下大静脈	講義	
第 6 回	中枢神経系の血管、胎児循環	講義	
第 7 回	リンパ系	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ（Ⅰ）	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体内部の機能や構造（筋）について学ぶ。

◇到達目標

骨格筋（主として体幹部に存在する筋）について、個々の名称、その支配神経名と主な作用について理解習得する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	筋系の総論	講義	
第 2 回	各論 頭部の筋	講義	
第 3 回	頸部の筋	講義	
第 4 回	胸部の筋	講義	
第 5 回	腹部の筋	講義	
第 6 回	背部の筋	講義	
第 7 回	上肢帯の筋	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版（医学書院）
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅱ (2)	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

人体内部の機能や構造について学ぶ。具体的には内臓（呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌）について学ぶ。
--

◇到達目標

内臓の名称、その機能を理解習得する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	内臓学総論 消化器系 口腔～大腸	講義	
第 2 回	肝臓～腹膜	講義	
第 3 回	呼吸器系 鼻～喉頭	講義	
第 4 回	気管支～胸膜縦隔	講義	
第 5 回	泌尿器系	講義	
第 6 回	生殖器系	講義	
第 7 回	内分泌系	講義	
第 8 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第 5 版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ（1）	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

神経学の総論、中枢神経である脊髄、脳について学ぶ。

◇到達目標

(1) 神経の概念を習得する。 (2) 脊髄、脳について、その機能、そして人体における関連性を習得する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	神経学 総論	講義	
第2回	脊髄、髄膜	講義	
第3回	脳幹、小脳	講義	
第4回	脳、間脳、大脳皮質	講義	
第5回	大脳皮質、大脳基底核	講義	
第6回	神経路、上行性神経路	講義	
第7回	下行性神経路	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 90 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 10 %） □レポート（ %） □その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版（医学書院）
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
解剖学Ⅲ (2)	内海 眞子	1	1	前期	必修

◇講義概要

神経学の総論、末梢神経、感覚器について学ぶ。

◇到達目標

(1) 末梢神経の機能を習得する。 (2) 感覚器の名称、機能を習得する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	脊髄神経 総論 頸神経	講義	
第2回	頸神経、胸神経	講義	
第3回	腰神経、仙骨神経、尾骨神経	講義	
第4回	脳神経 総論 第1～6 脳神経	講義	
第5回	第7～12 脳神経	講義	
第6回	自律神経	講義	
第7回	感覚器、外皮、視覚器、平衡聴覚器	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	予習：必ず教科書を一読しておくこと。 復習：授業中の重要ポイントを中心にまとめること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学 (1)	坂田 進	1	2	前期	必修

◇講義概要

人体の各機能の基礎的内容を学ぶ。学習内容は総論と各論（細胞生理、組織、皮膚、骨、筋、血液、循環、呼吸）からなる。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	生理学とは？－ホメオスタシス、フィードバック機構	講義	
第2回	細胞と組織(1)－細胞の機能	講義	
第3回	細胞と組織(2)－組織の機能	講義	
第4回	皮膚と膜(1)－皮膚と膜の機能	講義	
第5回	皮膚と膜(2)－体熱産生、体温	講義	
第6回	骨格系(1)－骨機能、骨形成、骨の改変	講義	
第7回	骨格系(2)－頭蓋、体幹の骨格、体肢の骨格、関節	講義	
第8回	筋系(1)－筋の機能、収縮機序、エネルギー代謝	講義	
第9回	筋系(2)－骨格筋	講義	
第10回	血液－機能、血液型	講義	
第11回	循環器系(1)－心臓の機能	講義	
第12回	循環器系(2)－血圧、胎児循環、リンパ系	講義	
第13回	呼吸器系(1)－外呼吸、ガスの運搬、酸素解離曲線	講義	
第14回	呼吸器系(2)－呼吸調節	講義	
第15回	試験及び解説	試験	

評価方法	☒ 試験 (62 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (28 %) ☒ レポート (5 %) ☒ グループ発表 (5 %)
------	--

教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1)：解剖生理学 第5版 (メディカ出版) ナーシング・サプリー イメージできる解剖生理学 (メディカ出版)
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 (医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように予習・復習を行うこと。また、「イメージできる解剖生理学」から小テストの問題とレポートを課すので、それを十分に活用して生理学の理解を深めること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学 (2)	坂田 進	1	2	後期	必修

◇講義概要

人体の各機能の基礎的内容を学ぶ。学習内容は総論と各論（消化・吸収、腎、内分泌、生殖、神経、脳、感覚、免疫）からなる。

◇到達目標

1. 構造・疾病と関連づけて生理機能を説明できる。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	消化器系(1)－食欲、咀嚼、嚥下	講義	
第2回	消化器系(2)－消化・吸収・排泄の生理	講義	
第3回	泌尿器系(1)－腎の生理	講義	
第4回	泌尿器系(2)－排尿の生理	講義	
第5回	内分泌系(1)－ホルモンの種類と作用、脳ホルモン	講義	
第6回	内分泌系(2)－甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン、膵ホルモン	講義	
第7回	内分泌系(3)－副腎ホルモン、性腺ホルモン、腎ホルモン	講義	
第8回	生殖器系－女性生殖器・男性生殖器の生理	講義	
第9回	神経系(1)－神経膠細胞、ニューロン、シナプス、中枢神経系	講義	
第10回	神経系(2)－末梢神経系、生体リズム	講義	
第11回	感覚系(1)－視覚、聴覚、平衡覚	講義	
第12回	感覚系(2)－嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚	講義	
第13回	免疫系(1)－自然免疫系、獲得免疫系	講義	
第14回	免疫系(2)－アレルギー、自己免疫疾患	講義	
第15回	試験及び解説	試験	

評価方法	☒ 試験 (62 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (28 %) ☒ レポート (10 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1)：解剖生理学 第5版 (メディカ出版) ナーシング・サプリー イメージできる解剖生理学 (メディカ出版)
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 (医学書院)
留意事項	学習に時間を十分に割いて、「人体の生命の営みの巧妙さ」を理解するように予習・復習を行うこと。また、「イメージできる解剖生理学」から小テストの問題とレポートを課すので、それを十分に活用して生理学の理解を深めること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学実習 (1)	坂田 進	1	1	前期	必修

◇講義概要

体温、循環、呼吸の機能や構造を理解するための実習を行う。

◇到達目標

1. 自らが被験者となる生理学実習を通して、生理学的な機能の理解を深める。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	実習全般についてのガイダンス	講義	
第2回	実習1－体温調節機能実習（実習講義）	演習	
第3回	実習1－体温調節機能実習（実験データの取得）	演習	
第4回	実習1－体温調節機能実習（実習レポート作成）	演習	
第5回	実習2－循環調節機能基礎実習（実習講義）	演習	
第6回	実習2－循環調節機能基礎実習（実験データの取得）	演習	
第7回	実習2－循環調節機能基礎実習（実習レポート作成）	演習	
第8回	実習3－循環調節機能応用実習1－運動負荷等（実習講義）	演習	
第9回	実習3－循環調節機能応用実習1－運動負荷等（実験データの取得）	演習	
第10回	実習3－循環調節機能応用実習1－運動負荷等（実習レポート作成）	演習	
第11回	実習4－循環調節機能応用実習2－息こらえ等（実習講義）	演習	
第12回	実習4－循環調節機能応用実習2－息こらえ等（実験データの取得）	演習	
第13回	実習4－循環調節機能応用実習2－息こらえ等（実習レポート作成）	演習	
第14回	まとめ	演習	
第15回	試験及び解説	試験	

評価方法	□試験（ %） ■実技試験（ 40 %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） ■レポート（ 40 %） □その他（ %）
------	--

教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1)：解剖生理学 第5版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学 （医学書院）
留意事項	実習では、グループワークを行います。能動的に参加してください。 実習プロトコルを理解するように予習・復習を行うこと。 また、レポートは返却するので、それを活用して理解を深めること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
生理学実習 (2)	坂田 進	1	1	後期	必修

◇講義概要

筋、神経、感覚の機能や構造を理解するための実習を行う。

◇到達目標

1. 自らが被験者となる生理学実習を通して、生理学的な機能の理解を深める。
2. 生命現象の不思議さについて理論的に考察できる能力を修得する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	実習全般についてのガイダンス	講義	
第2回	実習1－視覚機能実習（実習講義）	演習	
第3回	実習1－視覚機能実習（実験データの取得）	演習	
第4回	実習1－視覚機能実習（実習レポート作成）	演習	
第5回	実習2－重量感覚実習（実習講義）	演習	
第6回	実習2－重量感覚実習（実験データの取得）	演習	
第7回	実習2－重量感覚実習（実習レポート作成）	演習	
第8回	実習3－味覚機能実習（実習講義）	演習	
第9回	実習3－味覚機能実習（実験データの取得）	演習	
第10回	実習3－味覚機能実習（実習レポート作成）	演習	
第11回	実習4－計算機能実習（実習講義）	演習	
第12回	実習4－計算機能実習（実験データの取得）	演習	
第13回	実習4－計算機能実習（実習レポート作成）	演習	
第14回	まとめ	演習	
第15回	試験及び解説	試験	

評価方法	□試験（ %） ■実技試験（ 40 %） ■演習評価（ 20 %） □小テスト（ %） ■レポート（ 40 %） □その他（ %）
------	--

教科書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 (1)：解剖生理学 第5版 （メディカ出版）
参考図書	カラーで学ぶ解剖生理学（医学書院）
留意事項	実習では、グループワークを行います。能動的に参加してください。 実習プロトコルを理解するように予習・復習を行うこと。 また、レポートは返却するので、それを活用して理解を深めること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学 (1)	東田 充康	1	2	前期	必修

◇講義概要

運動は全ての作業遂行の基礎となる。作業を遂行するために身体に求められる「安定性」と「運動」をどのように作り出すのか知るため、運動器を中心に正常状態と異常状態を学習する。具体的には総論（力学、運動器官、運動分析、動作分析）と各論（姿勢、歩行、呼吸運動、靱帯と関節を含めた四肢の関節運動）。

◇到達目標

- ・専門用語を適切に用いることができる。
- ・関節運動の面と軸や関節の形状、そして運動器官の構造・機能を理解する。
- ・上肢、下肢、体幹、頭部の各部位の名称や運動を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション（身体運動入門）	講義	東田
第2回	生体力学モデルと作業療法の関連	講義	東田
第3回	身体運動学の基礎	講義	東田
第4回	身体運動の面と軸（基本肢位、運動の面と軸）	講義	東田
第5回	上肢・上肢帯の運動総論（上肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義	東田
第6回	上肢帯と肩関節での上腕の運動	講義	東田
第7回	肘関節と前腕の運動	講義	東田
第8回	手関節と手の運動	講義	東田
第9回	下肢・下肢帯の運動総論（下肢の役割、関節の形状と運動方向）	講義	東田
第10回	下肢帯と股関節の運動	講義	東田
第11回	膝関節の運動	講義	東田
第12回	足関節と足の運動	講義	東田
第13回	体幹の運動（頸椎、胸椎、腰椎）	講義	東田
第14回	顔面および頭部の運動	講義	東田
第15回	試験	試験	東田

評価方法	■試験（ 60 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） ■その他（ 20 % ）
------	--

教科書	基礎運動学 第6版 （医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介する PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 （医歯薬出版）
留意事項	質問するなど積極的に参加してください 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行ってください

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学 (2)	東田 充康	1	2	後期	必修

◇講義概要

運動は全ての作業遂行の基礎となる。作業を遂行するために身体に求められる「安定性」と「運動」をどのように作り出すのか知るため、運動器を中心に正常状態と異常状態を学習する。具体的には総論（力学、運動器官、運動分析、動作分析）と各論（姿勢、歩行、呼吸運動、靱帯と関節を含めた四肢の関節運動）。

◇到達目標

- ・身体の仕組み（触診）や姿勢制御などの成り立ち、変化（学習）について理解できる。
- ・呼吸運動、運動学習について理解ができる。
- ・専門用語を適切に用いて、作業と動作の分析ができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	東田
第2回	ヒトの姿勢（体位と構え）	講義	東田
第3回	姿勢とその制御（重心と姿勢戦略）	講義	東田
第4回	胸郭運動と呼吸	講義	東田
第5回	運動学習	講義	東田
第6回	歩行と走行の基礎	講義	東田
第7回	正常歩行	講義	東田
第8回	高齢者、小児の歩行	講義	東田
第9回	作業と動作の分析入門	講義	東田
第10回	動作分析と運動分析	講義	東田
第11回	下肢・下肢帯の分析	講義	東田
第12回	頸部・体幹の分析	講義	東田
第13回	上肢・上肢帯の分析	講義	東田
第14回	日常生活動作（ADL）の分析	講義	東田
第15回	試験	試験	東田

評価方法	■試験（ 60 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 20 %） □レポート（ %） ■その他（ 20 %）
------	---

教科書	基礎運動学 第6版 （医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介する PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 （医歯薬出版）
留意事項	質問するなど積極的に参加してください 授業理解のため、授業前後に予習、復習を行ってください

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学実習 (1)	東田 充康	1	1	前期	必修

◇講義概要

体表観察、運動分析・動作分析の実習を通して学ぶ。

◇到達目標

・専門用語を適切に用いることができる。 ・関節運動の面と軸や関節の形状、そして運動器官の構造・機能を理解する。 ・上肢、下肢、体幹、頭部の各部位の名称や運動を理解する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション (身体運動入門)	演習	東田
第2回	生体力学モデルと作業療法の関連	演習	東田
第3回	身体運動学の基礎	演習	東田
第4回	身体運動の面と軸 (基本肢位、運動の面と軸)	演習	東田
第5回	上肢・上肢帯の運動総論 (上肢の役割、関節の形状と運動方向)	演習	東田
第6回	上肢帯と肩関節での上腕の運動	演習	東田
第7回	肘関節と前腕の運動	演習	東田
第8回	手関節と手の運動	演習	東田
第9回	下肢・下肢帯の運動総論 (下肢の役割、関節の形状と運動方向)	演習	東田
第10回	下肢帯と股関節の運動	演習	東田
第11回	膝関節の運動	演習	東田
第12回	足関節と足の運動	演習	東田
第13回	体幹の運動 (頸椎、胸椎、腰椎)	演習	東田
第14回	顔面および頭部の運動	演習	東田
第15回	試験	演習	東田

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %)
	☐ 小テスト (%) ☒ レポート (60 %) ☒ その他 (20 %)

教科書	基礎運動学 第6版 (医歯薬出版)
参考図書	適宜紹介する。PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 (医歯薬出版)
留意事項	演習では能動的に参加してください。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動学実習（2）	東田 充康	1	1	後期	必修

◇講義概要

体表観察、運動分析・動作分析の実習を通して学ぶ。

◇到達目標

・身体の仕組み（触診）や姿勢制御など運動の成り立ち、変化（学習）について理解できる。 ・専門用語を適切に用いて、作業と動作の分析ができる。 ・分析内容をレポートやプレゼンテーションで伝えることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	演習	東田
第2回	ヒトの姿勢（体位と構え）	演習	東田
第3回	姿勢とその制御（重心と姿勢戦略）	演習	東田
第4回	胸郭運動と呼吸	演習	東田
第5回	運動学習	演習	東田
第6回	歩行と走行の基礎	演習	東田
第7回	正常歩行	演習	東田
第8回	高齢者、小児の歩行	演習	東田
第9回	作業と動作の分析入門	演習	東田
第10回	動作分析と運動分析	演習	東田
第11回	下肢・下肢帯の分析	演習	東田
第12回	頸部・体幹の分析	演習	東田
第13回	上肢・上肢帯の分析	演習	東田
第14回	日常生活動作（ADL）の分析	演習	東田
第15回	まとめ	演習	東田

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 60 %） ☒ その他（ 20 %）
------	---

教科書	基礎運動学 第6版 （医歯薬出版）
参考図書	適宜紹介する。 PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 （医歯薬出版）
留意事項	演習では能動的に参加してください。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
人間発達学	黒田 真由美	1	2	後期	必修

◇講義概要

人間に対する理解の基礎として、小児期・青年期・成人期・老年期の各期における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的人格の発達を学ぶ。

◇到達目標

生涯を通じた発達に関する理論について理解を深める。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	発達心理学の概要	講義	
第2回	研究方法	講義	
第3回	遺伝と環境	講義	
第4回	生涯発達理論	講義	
第5回	胎児期	講義	
第6回	新生児期	講義	
第7回	生理的早産	講義	
第8回	乳児期	講義	
第9回	ボウルビーの愛着理論	講義	
第10回	愛着理論の展開	講義	
第11回	ピアジェ理論	講義	
第12回	障がいと発達	講義	
第13回	青年期	講義	
第14回	中・高年期	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（80％）	□実技試験（　　％）	□演習評価（　　％）
	■小テスト（20％）	□レポート（　　％）	□その他（　　％）

教科書	なし
参考図書	なし
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習・復習を行ってください。 授業時にプリントを配布します。小テストは返却するので、疑問点を解消して下さい。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床心理学	大村 枝里	1	2	後期	必修

◇講義概要

主として精神疾患患者に対する心理的理解を深められるよう学ぶ。

◇到達目標

臨床心理学の基礎的な学びに基づいて、ひとのこころのあり様を理解することができる。また、そのことを踏まえて臨床的な関わりとは何かを自分で考え、実践につなげることができる。さらに、ワークでの体験やディスカッションによって生じる「今・ここ」でのこころの動きに触れ、そのことについて考えることで、ひとのこころについて体験的に理解し、これからの実践に活かすことができる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	臨床心理学の歴史	講義	
第3回	心理療法とは	講義	
第4回	人間の発達とライフサイクル	講義	
第5回	臨床心理士の仕事・診断と見立て	講義	
第6回	心の構造と防衛機制	講義	
第7回	神経症	講義	
第8回	精神病	講義	
第9回	パーソナリティ障害	講義	
第10回	うつ	講義	
第11回	摂食障害	講義	
第12回	心理検査	講義	
第13回	発達障害	講義	
第14回	表現療法	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) ■小テスト (20 %) □レポート (%) □その他 (%)
------	---

教科書	毎回の授業でレジュメを配布。
参考図書	授業内で随時紹介。
留意事項	毎回の授業で小テストの受験と感想シートの記入が必須となる。また、1回の講義あたり60分の予習・復習を行うこと。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
一般臨床医学	西村 公男 他	1	2	後期	必修

◇講義概要

臨床医学全般を概観し、救急救命医学や予防医学を含む基礎的知識を学ぶ。

◇到達目標

各科における、主要な疾患とその症状について説明できる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	外科	講義	土井
第 2 回	外科	講義	土井
第 3 回	脳外科	講義	土井
第 4 回	脳外科	講義	土井
第 5 回	老年医学	講義	土井
第 6 回	泌尿器科	講義	中農
第 7 回	泌尿器科	講義	中農
第 8 回	内科	講義	西村
第 9 回	内科	講義	西村
第 10 回	内科	講義	西村
第 11 回	産婦人科	講義	北村
第 12 回	産婦人科	講義	北村
第 13 回	耳鼻咽喉科	講義	山下
第 14 回	耳鼻咽喉科	講義	山下
第 15 回	眼科	講義	安森
第 16 回	定期試験	試験	石川

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版 (医歯薬出版株式会社)
参考図書	
留意事項	講義の前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
内科学	佃 宗紀	2	2	前期	必修

◇講義概要

内科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（循環器、呼吸器、消化器、血液、造血器、代謝、内分泌、腎、泌尿器、膠原病、アレルギー、感染症、中毒、物理的原因）について学ぶ。栄養学と薬学の基礎及び画像診断学を含む。

◇到達目標

内科的疾患を有する患者さんのリハビリテーション治療を有効かつ安全におこなうために必要な内科学の知識を習得する。内科学総論・主な症候学につづき循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・内分泌疾患・アレルギー疾患等、系統別・臓器別の知見を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	内科学総論、診断と治療	講義	
第2回	症候学	講義	
第3回	循環器疾患総論	講義	
第4回	循環器疾患各論	講義	
第5回	呼吸器疾患	講義	
第6回	消化器疾患	講義	
第7回	肝胆膵疾患	講義	
第8回	血液・造血器疾患	講義	
第9回	代謝疾患	講義	
第10回	内分泌疾患	講義	
第11回	腎・泌尿器疾患	講義	
第12回	免疫疾患	講義	
第13回	感染症	講義	
第14回	栄養学	講義	
第15回	試験、まとめ	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版（医学書院）
参考図書	特になし
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習・復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
脳神経外科学	前川 基継	2	2	前期	必修

◇講義概要

中枢・末梢の神経系の基礎的知識を学習し、併せて神経疾患や病態の基礎的知識を学ぶ。
画像診断学を含む。

◇到達目標

脳神経外科疾患を理解し、基礎的な知識を身につけることにより、各疾患に対するリハビリテーションの必要性を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	脳神経外科緒論： 脳神経外科の歴史、脳神経外科で扱う疾患、脳の臓器特殊性等を理解する	講義	
第2回	脳・脊髄の臨床解剖： 頭蓋と頭蓋内腔構造、髄膜、脳室と髄液循環について学ぶ	講義	
第3回	脳・脊髄の臨床解剖： 大脳、脳幹、小脳、脊髄の解剖と機能・局所徴候を理解する	講義	
第4回	脳・脊髄の臨床解剖： 脳神経の機能、主要脳血管の走行・支配領域について学ぶ	講義	
第5回	神経学的検査： 精神状態、脳神経、運動・感覚等の機能障害の診かたを学ぶ	講義	
第6回	脳神経疾患の補助診断法： 脳疾患に対する画像診断検査、脳波、髄液検査等につき学ぶ	講義	
第7回	脳に特異的な症候と病態： 意識障害や頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、血液脳関門等につき学ぶ	講義	
第8回	脳腫瘍： 脳腫瘍の分類、発生頻度、症状、診断、治療法につき概括を把握する	講義	
第9回	脳腫瘍： 神経膠腫、髄膜腫など各脳腫瘍の特徴を理解する	講義	
第10回	脳血管障害： 脳血管障害の疫学、出血性脳血管障害について学ぶ	講義	
第11回	脳血管障害： 虚血性脳血管障害、もやもや病について学ぶ	講義	
第12回	頭部外傷： 頭皮損傷、頭蓋骨骨折、外傷性頭蓋内出血、脳挫傷等について学ぶ	講義	
第13回	機能的脳神経外科、炎症性疾患： 頭痛、癲癇などと髄膜炎など頭蓋内感染症につき学ぶ	講義	
第14回	総復習	講義	
第15回	試験	試験	

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

評価方法	■試験 (100 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	□その他 (%)

教科書	・標準脳神経外科学 第 15 版 (医学書院) ・病気が見える vol.7 脳・神経 (MEDIC MEDIA)
参考図書	
留意事項	予習、復習を行い、疑問点をそのままにせず、質問する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科科学（1）	小野 浩史	2	2	前期	必修

◇講義概要

整形外科科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（各部位の疾患及び外傷）について学ぶ。画像診断学を含む。
--

◇到達目標

運動器の基本的構造を理解し、運動器疾患を理解することにより 各疾患 各部位に対するリハビリテーションの基本を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	整形外科総論 運動器の構造	講義	
第2回	整形外科総論 運動器の現症の取り方	講義	
第3回	整形外科総論 運動器の検査法	講義	
第4回	整形外科総論 運動器の治療総論	講義	
第5回	運動器： 手関節と手の構造と疾患	講義	
第6回	運動器： 手関節と手の外傷	講義	
第7回	運動器： 肘と前腕の構造と疾患	講義	
第8回	運動器： 肘と前腕の外傷	講義	
第9回	運動器： 肩関節の構造と疾患	講義	
第10回	運動器： 肩関節の外傷	講義	
第11回	運動器： 膝関節の構造と疾患	講義	
第12回	運動器： 膝関節の外傷	講義	
第13回	運動器： 股関節の疾患と外傷	講義	
第14回	運動器： 足関節・足の疾患と外傷	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科（MEDIC MEDIA）
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
整形外科学（2）	小野 浩史	2	1	後期	必修

◇講義概要

整形外科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（各部位の疾患及び外傷）について学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

運動器の基本的構造を理解し、運動器疾患を理解することにより 各疾患 各部位に対するリハビリテーションの基本を学ぶ。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	脊柱・脊髄の構造と疾患	講義	
第2回	変形性関節症	講義	
第3回	関節リウマチ	講義	
第4回	運動器の感染性疾患	講義	
第5回	骨壊死性疾患	講義	
第6回	骨粗鬆症とロコモティブシンドローム	講義	
第7回	末梢神経の障害	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科（MEDIC MEDIA）
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経内科学（1）	辻井 啓之	2	2	前期	必修

◇講義概要

神経症候学並びに神経内科学及び脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と症候学（抹消神経、中枢神経、筋萎縮、失調）について学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患における中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともに中心となっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	序論	講義	
第2回	中枢神経系の解剖と機能	講義	
第3回	神経学的診断と評価	講義	
第4回	神経学的検査法	講義	
第5回	意識障害・脳死・植物状態	講義	
第6回	頭痛・めまい・失神	講義	
第7回	運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮	講義	
第8回	錐体外路徴候・不随意運動	講義	
第9回	運動失調・感覚障害	講義	
第10回	高次脳機能障害Ⅰ（失認・失語・失行）	講義	
第11回	高次脳機能障害Ⅱ（注意障害・遂行機能障害）	講義	
第12回	構音障害	講義	
第13回	嚥下障害	講義	
第14回	脳神経外科領域の疾患	講義	
第15回	試験および解説	試験	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版（医学書院）
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。シラバスの各回は、教科書に則しているため、該当箇所の予習・復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
神経内科学（2）	辻井 啓之	2	1	後期	必修

◇講義概要

神経症候学並びに神経内科学及び脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と症候学（抹消神経、中枢神経、筋萎縮、失調）について学ぶ。画像診断学を含む。

◇到達目標

近年の高齢化の進行により、リハビリテーションの対象となる疾患において、中枢神経系の疾患が、骨関節疾患とともにますます重要になっている。中枢神経疾患を理解するための基本的な知識と最新の情報の習得を目標とする。神経内科学（1）で学んだ症候学の知識をもとに、十分な理解を目指してほしい。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	変性疾患（錐体外路系を除く）・脱髄疾患	講義	
第2回	錐体外路の変性疾患	講義	
第3回	末梢神経障害	講義	
第4回	てんかん	講義	
第5回	筋疾患	講義	
第6回	感染性疾患	講義	
第7回	中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患	講義	
第8回	小児神経疾患	講義	
第9回	神経疾患に多い合併症	講義	
第10回	試験及び解説	試験	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版（医学書院）
参考図書	必要に応じて紹介する。
留意事項	授業は教科書に則して行う。また、進行度・理解度に応じて順序の変更、割愛もありうる。 試験は、上記の授業の内容以外に、脳血管障害・認知症・脳腫瘍・ 外傷性脳損傷（軸索障害を含む）・脊髄疾患が出題される。 シラバスの各回は、教科書に則しているの、該当箇所の予習・復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学（1）	水井 亮	2	2	前期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（器質性精神障害、機能性精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、老年期の障害）について学ぶ。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と疾患原因の仮説を概説できる。
治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神障害の診断と評価	講義	
第2回	発達障害①総論・ASD	講義	
第3回	発達障害②ADHD・その他	講義	
第4回	統合失調症	講義	
第5回	気分障害（1）大うつ病性障害	講義	
第6回	気分障害（2）双極性障害	講義	
第7回	向精神薬総論	講義	
第8回	睡眠障害	講義	
第9回	てんかん	講義	
第10回	認知症①アルツハイマー型・脳血管性	講義	
第11回	認知症②レビー小体型、その他	講義	
第12回	パーソナリティ障害	講義	
第13回	摂食障害	講義	
第14回	質疑応答	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 演習評価（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ その他（ ％）
------	---

教科書	New Simple Step 精神科 （総合医学社）
参考図書	
留意事項	事前に予習、復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
精神医学 (2)	水井 亮	2	1	後期	必修

◇講義概要

精神医学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（器質性精神障害、機能性精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、老年期の障害）について学ぶ。

◇到達目標

各精神疾患の特徴と疾患原因の仮説を概説できる。 治療薬の標的と治療過程における変化を関連づける。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	精神医学総論～前期の復習～	講義	
第2回	精神遅滞/学習障害	講義	
第3回	アルコール・薬物依存	講義	
第4回	動機付け面接～総論～	講義	
第5回	自傷・自殺	講義	
第6回	神経症性障害①	講義	
第7回	神経症性障害②	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	New Simple Step 精神科 （総合医学社）
参考図書	
留意事項	事前に予習、復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
小児科学	石割 康平	2	2	前期	必修

◇講義概要

1. 小児の成長と発達を学ぶ。
2. 小児期特有の基本的な生理と病気について学ぶ。

◇到達目標

1. 成人と違う小児の特性を理解する。
2. 小児の正常の成長・発達の過程とそれに影響を与える要素を理解する。
3. 多くの小児疾患に、遺伝的背景や発生段階での問題が影響していることを理解する。
4. 個々の小児疾患の病態や臨床的特徴や診断・治療などの概要を理解する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	総論 1 小児の特性 成長と発達	講義	
第2回	総論 2 小児の栄養・保健 マスクリーニングと予防接種	講義	
第3回	総論 3 遺伝と発生の基礎知識 病態の理解のために	講義	
第4回	各論 1 新生児	講義	
第5回	2 遺伝性疾患と先天異常	講義	
第6回	3 神経筋疾患と骨系統疾患	講義	
第7回	4 循環器疾患 5 呼吸器疾患	講義	
第8回	6 免疫疾患とアレルギー 7 感染症	講義	
第9回	8 消化器疾患 9 肝胆道疾患	講義	
第10回	10 内分泌・代謝疾患	講義	
第11回	11 血液疾患 12 腫瘍性疾患	講義	
第12回	13 腎泌尿器疾患	講義	
第13回	14 心身医学・発達障害	講義	
第14回	15 関連領域	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第5版 (医学書院)
参考図書	病気がみえる vol.15 小児科 (医療情報科学研究所) ナースとコメディカルのための小児科学 改定第6版 (へるす出版) 適宜有用なインターネットサイトを紹介したり、プリントを配布します。
留意事項	①受講前に、各講義の内容について教科書を見出し程度を大まかに確認しておくこと。 ②講義終了時に小テストをします。解答用紙を提出して退出すること。 ③参考図書は必ず買ってください必要はありません。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
病理学	前田 裕子	2	2	後期	必修

◇講義概要

疾病の原因及び形態的变化を主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。

◇到達目標

根拠に基づいた的確な治療を行なうには、正常な人間の構造を理解したうえで、病気の原因、あるいは経過についても正しい知識が必要となる。本講では、疾病のおこるメカニズムを病因別に学び、その不調がどのように現れるかという実践的な捉え方ができるようになることを目的とする。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	総論 退行性病変、進行性病変	講義	
第2回	総論 代謝障害	講義	
第3回	総論 先天異常	講義	
第4回	総論 循環障害	講義	
第5回	総論 炎症・修復・免疫・アレルギー	講義	
第6回	総論 感染症	講義	
第7回	総論 腫瘍	講義	
第8回	中間試験・各論 循環器疾患	講義	
第9回	各論 血液疾患	講義	
第10回	各論 呼吸器疾患	講義	
第11回	各論 消化器疾患	講義	
第12回	各論 肝・胆・膵疾患	講義	
第13回	各論 泌尿生殖器疾患	講義	
第14回	各論 神経・筋・骨疾患	講義	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	☒ 試験 (70 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (30 %) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版 (医学書院)
参考図書	特になし
留意事項	各章が終わる時点で、問題プリントを配布するので、復習すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害福祉論	島本 良重	1	1	前期	必修

◇講義概要

障害及び福祉に関する歴史的な背景を学び、基本的な内容を理解する

◇到達目標

基本的な概念を理解し、記述することができる 法令の理解 医学モデルと障害構造論の違いを理化することができる 海外の動向を知ることができる：脱施設化や地域生活
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	「障害」と「障害者」をどう理解するか	演習・講義	
第2回	障害者福祉に影響を与えた思想	演習・講義	
第3回	障害者福祉制度の流れを理解する	演習・講義	
第4回	生活支援と自立支援	演習・講義	
第5回	地域生活を支える	演習・講義	
第6回	障害者と社会	演習・講義	
第7回	障害者福祉の国際的動向	演習・講義	
第8回	まとめ	演習・講義	

評価方法	☒ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	「障害者福祉の世界（第5版）」（有斐閣アルマ） 「スウェーデンの作業療法士が教える発達障害の子どもと楽しむワークショップ」（かもがわ出版）
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	1	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

・多職種協業とはどういうものがあるか理解する。 ・ICF、ICIDH、ADL、QOLという用語について理解する。 ・福祉用具、ユニバーサルデザインなどについて理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	リハビリテーションの定義と 4 つの側面を理解できるようになる	講義	
第 2 回	障害論／ICF と ICIDH の違いを説明できるようになる	講義	
第 3 回	ADL／QOL について説明できるようになる	講義	
第 4 回	チーム医療/協業としてのリハビリテーションについて理解できる	講義	
第 5 回	他職種の仕事を理解する（介護福祉士）	講義	
第 6 回	他職種の仕事を理解する（看護師）	講義	
第 7 回	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン、福祉用具の知識を深める	講義	
第 8 回	試験		

評価方法	☒ 試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第 3 班
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。シラバスを見て事前に予習し、講義後は復習が望ましい。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論 (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	2	後期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

リハビリテーション職種に必要な態度や知識を用語で説明することが出来る(医療倫理・守秘義務・他) 国際リハビリテーション 地域の活動：国外・国内の状況を情報収集し考えを述べる事が出来る。 他職種連携について 国内外の状況について学び必要な法令を述べる事が出来る

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	疾患調べ (脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第2回	疾患調べ (脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第3回	疾患調べ (脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第4回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第5回	疾患調べ 発表	講義・演習	
第6回	海外の作業療法 スウェーデンの作業療法 (河本佳子先生)	講義	
第7回	観察記録、SOAP	講義	
第8回	SOAP	講義	
第9回	ICF	講義・演習	
第10回	ICF グループワーク	講義・演習	
第11回	ICF グループワーク発表	講義・演習	
第12回	他職種のリハビリ PT	講義	
第13回	他職種のリハビリ ST	講義	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 (医歯薬出版)
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
公衆衛生学	三浦 康代	2	1	前期	必修

◇講義概要

公衆衛生とは組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長及び肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術であり、その基礎を学ぶ。

◇到達目標

1. 公衆衛生活動を歴史的に理解し、その発展過程を踏まえ、現在の健康政策を考察できる。
2. 集団としての健康を守るためのさまざまな健康指標について理解できる。
3. 公衆衛生の実際を対象別、場面別に実践内容と支援のあり方の概要について理解できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	公衆衛生とは（定義・対象・歴史・法的基盤	講義	
第2回	集団の健康をとらえるための手法（疫学・保健統計）	講義	
第3回	健康と環境	講義	
第4回	感染症とその予防対策	講義	
第5回	地域における公衆衛生の実践（母子保健・成人保健）	講義	
第6回	地域における公衆衛生の実践（高齢者保健・精神保健・歯科保健・障害者保健・難病保健）	講義	
第7回	学校保健・産業保健・災害保健	講義	
第8回	終講試験（60分）+まとめ（30分）	講義	

評価方法	■試験（100 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	□レポート（ %）	□その他（ %）

教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 第14版（医学書院）
参考図書	なし
留意事項	①テキスト・ノート・筆記用具持参 ②事前学習 適時指示する ③予習をしておくこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	1	2	前期	必修

◇講義概要

作業療法についてその全体像が把握できるよう総合的、体系的に学ぶ。

◇到達目標

- ◆これから目指す作業療法士という職業について理解を深める。
- ◆各領域における作業療法士の役割について学ぶ。
- ◆プロフェッショナルリズムの基礎的な力を養う。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義・演習	北野
第2回	作業療法とは何か	講義・演習	北野
第3回	作業療法と関連する学問 医学系科目と作業療法	講義	北野
第4回	作業療法の定義	講義	北野
第5回	作業療法の対象 ①精神障害（病院精神科）	講義	石川
第6回	作業療法の対象 ②精神障害（ストレスケア病棟/リワークプログラム）	講義	池田/犬
第7回	作業療法の対象 ③高齢期の作業療法（デイケア）	講義	島本
第8回	作業療法の対象 ④高次脳機能障害の作業療法	講義・演習	北野
第9回	作業療法の対象 ⑤身体障害の作業療法（日常生活活動）	講義	籠島
第10回	作業療法の対象 ⑥身体障害の作業療法（環境適応の観点から）	講義	森木
第11回	作業療法の対象 ⑦高齢期の作業療法（特別養護老人ホーム）	講義	池田/犬
第12回	作業療法の対象 ⑧発達障害の作業療法（重症心身障害児を中心に）	講義・演習	北野
第13回	作業療法の対象 ⑨地域における作業療法（訪問作業療法）	講義	渡邊
第14回	作業療法と関連する職種と作業療法士の職業倫理	講義・演習	北野
第15回	試験およびまとめ		

評価方法	■試験（40％） □実技試験（ ）％ ■演習評価（20％） □小テスト（ ）％ ■レポート（40％） □その他（ ）％
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	予習復習を行い、理解度を高めることを心がけてください。 なお、『作業療法の対象』では、講義順序が変わることがあります。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業学	銀山 章代	1	2	後期	必修

◇講義概要

作業遂行の視点から、作業分析と指導法を学ぶ。
目的に応じた作業活動を企画し、実施する。

◇到達目標

作業が人に及ぼす影響について考え、伝えることができる。
作業の効果と用い方について、自分の意見が言える。
作業の効果を列挙し、効果やねらいに応じた活動を企画し、学生間で実施できる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	基礎作業学とは何か。コースオリエンテーション	講義	
第2回	作業学の構造	講義	
第3回	作業ができるということ	講義	
第4回	作業を用いる条件	講義	
第5回	作業の治療への適用	講義	
第6回	作業の治療への適用（作業分析・目標・指導方法）	講義・実習	
第7回	目的に応じた指導方法の違いを体験する	講義・実習	
第8回	作業の企画を立案する	講義・実習	
第9回	作業を実施する(1.2班)	講義・実習	
第10回	作業を実施する(3.4班)	講義・実習	
第11回	作業を実施する(5.6班)	講義・実習	
第12回	企画を修正し、計画を修正する	講義・実習	
第13回	修正部分を実施する(1.2.3班)	講義・実習	
第14回	修正部分を実施する(4.5.6班)	講義・実習	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 60 %） ☐ 小テスト（ %）	☐ 実技試験（ %） ☒ レポート（ 10 %）	☐ 演習評価（ %） ☒ その他（ 課題 30 %）
------	---	---	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 （メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	講義の前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅰ（木工）	稲葉 崇史	1	1	前期	必修

◇講義概要

木工の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

・本格的な木工の道具を使用することで、正しい道具の使い方を理解する。 ・昔ながらのホゾや組み手を使った家具を製作することで、木の特性を理解したものの作りを実施する。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	木工道具の説明	演習	
第2回	基礎練習・四方胴付ホゾ加工 (1) ホゾ切り	演習	
第3回	基礎練習・四方胴付ホゾ加工 (2) ホゾ穴堀り	演習	
第4回	基礎練習・五枚組み継ぎ加工	演習	
第5回	花台製作 (1) 墨付け	演習	
第6回	花台製作 (2) ホゾ加工	演習	
第7回	花台製作 (3) 相欠き加工	演習	
第8回	花台製作 (4) 組み立て・塗装	演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %)
	☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)

教科書	プリント配布（図面）
参考図書	特になし
留意事項	特になし

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅰ（陶芸）	小川 一雅	1	1	前期	必修

◇講義概要

陶芸の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

陶芸実技を通じて、陶芸作業全般を理解できることを目的とする。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	陶芸概説	実技	
第2回	実技 土練り製作テーマ（湯のみ）窯詰め		
第3回	実技 製作テーマ（茶わん）	実技	
第4回	本焼きのための釉かけ窯詰め（湯のみ）		
第5回	実技 製作テーマ（花器）	実技	
第6回	本焼きのための釉かけ窯詰め（茶わん）		
第7回	実技 本焼きのための釉かけ窯詰め（花器）	実技	
第8回	電動ロクロでの作品制作 完成作品（湯のみ、茶わんの評価）		

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ■その他（授業のなかで製作した作品 100%）
------	---

教科書	プリントを配布します。
参考図書	
留意事項	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅱ（絵画）	兼元 和美	1	1	前期	必修

◇講義概要

絵画の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

・絵画実習を通してテーマ毎の作業工程の理解と確認をするとともに、作業療法士としての基礎的知識及び基礎的技法を修得する。 ・作品を完成した喜びを体感することで作業分析ができ、説明・指導できるようにする。 ・作品を鑑賞し、自己との対話の中で喜びを感じるとともに、作品を作業療法室内に展示することにより、それぞれの人の主張や思いを理解し対応するコミュニケーション力を身につける。 ・作業活動を通して作業工程や作品制作で使用する画材用具について理解するとともに、準備・後片付けができる。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	・「描く」ことの治療的活用、作業の流れ・特徴・作業分析について表現活動における発表（展示）の展開方法	実習	
第2回	・「鉛筆で描く」・・・持ち方、タッチ、濃淡による表現、作品制作	実習	
第3回	・「水彩絵の具で描く」・・・筆と水、水彩紙扱い方、色の表情、作品制作	実習	
第4回	・「パステルで描く」・・・種類、表現技法、指で描く、作品制作	実習	
第5回	・「色鉛筆で描く」・・・種類、表現技法、作品制作	実習	
第6回	・「人物を描く」・・・美術人体解剖学、自画像（自己との対話）、グループによる制作	実習	
第7回	・「絵手紙を描く」・・・顔彩・墨の使い方、表現技法「作品制作」	実習	
第8回	・「コラージュ」「ちぎり絵」・・・表現技法、作品制作 ・絵画実習のまとめ	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 10 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☒ その他（作品提出 70 %）
------	--

教科書	適宜プリントを配布する
参考図書	
留意事項	・作業を実施していく時、作品制作者の症状、緊張、不安感等にも注意をはらうことが必要。 ・作業毎の予習・復習・授業の経過分析(レポート)を行うとともに、「描く」という作業そのものを療法やコミュニケーションの手段として使う。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅱ（織物）	小谷 憲子	1	1	前期	必修

◇講義概要

織物の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

マフラーを織りますが、一つでもミスをするとう直さないと先へは進めません。織りキズとして残ります。一つ一つの行動をまちがいなく最後までつづける根気を身につけます。思い通りの色が出ないこともあり、気分的なムラが作品に反映されます。はじめから最後までミスなくコツコツと仕事をしていきましょう。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	「私は小谷憲子です」アタッチメントは10点ありますか？ こわしたり紛失したりすると弁償してもらいます。さあ、整経をはじめます。	演習	
第2回	たて糸をハタに通す。	演習	
第3回	もじり通し、おさ通しを完了、たて糸をはり、織りはじめます。	演習	
第4回	織り	演習	
第5回	織り	演習	
第6回	織り	演習	
第7回	房を作って提出。がんばりましたね。	演習	

評価方法	☐ 試験（ %）	☐ 実技試験（ %）	☒ 演習評価（ 20 %）
	☐ 小テスト（ %）	☐ レポート（ %）	☒ その他（ 作品の提出 80 %）

教科書	プリント配布
参考図書	
留意事項	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
基礎作業療法学実習Ⅲ（手工芸）	銀山 章代	1	1	前期	必修

◇講義概要

手工芸の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。

◇到達目標

様々な手工芸を体験する。 各作業に必要な道具と材料を知る。 作業の工程を理解し、種目の難易度・自由度など作業分析の項目に応じた段階付けを体験する。
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	コースオリエンテーション	講義	
第2回	塗り絵(色鉛筆。水性色鉛筆)	講義・実習	
第3回	羊毛フェルト細工	講義・実習	
第4回	刺繍(クロスステッチ一色)	講義・実習	
第5回	刺繍(クロスステッチ多色)	講義・実習	
第6回	毛糸(指編み)	講義・実習	
第7回	毛糸(かぎ針編み・鎖編み)	講義・実習	
第8回	革細工(スタンピング)	講義・実習	
第9回	革細工(カービング)	講義・実習	
第10回	革細工(染色)	講義・実習	
第11回	革細工(レーシング・手縫い)	講義・実習	
第12回	革細工(仕上げ)	講義・実習	
第13回	ビーズ細工(花模様)	講義・実習	
第14回	ビーズ細工(小物作り)	講義・実習	
第15回	まとめ・試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☒ その他 (作品提出 30 %)
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版 (メジカルビュー版)
参考図書	
留意事項	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	前期	必修

◇講義概要

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する

◇到達目標

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法の理解

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	演習	
第10回	レクリエーションプログラムについて	演習	
第11回	ドッグセラピー（レスキュードッグ）の体験	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 90 %） ☒ その他（ 10 %）
------	---

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料 その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法管理学	池田 沙弥香	2	2	後期	必修

◇講義概要

作業療法の臨床業務に必要な基本事項（職場管理、職業倫理、組織、マネジメント、医療安全等）について学ぶ。

◇到達目標

- ・作業療法士に必要なさまざまなマネジメントについて説明できる
- ・作業療法の役割と職域を説明できる
- ・作業療法士の職業倫理を説明することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	作業療法とマネジメント	講義	
第2回	組織の成り立ちとマネジメント	講義	
第3回	組織の中での作業療法士の役割（コンパニオンアニマル：犬）	講義	
第4回	チーム医療・多職種連携とコミュニケーション	講義	
第5回	診療情報と記録の取り方および情報の取扱いについて	講義	
第6回	医療サービスのマネジメント	講義	
第7回	医療安全のマネジメント	講義・演習	
第8回	作業療法業務のマネジメント—人・物・経済性のマネジメント	講義	
第9回	作業療法業務のマネジメント—情報・時間・ストレスのマネジメント	講義	
第10回	作業療法業務のマネジメント 実践からの学び①	講義	
第11回	作業療法業務のマネジメント 実践からの学び②	講義・演習	
第12回	作業療法の役割と職域（コンパニオンアニマル：犬）	講義	
第13回	これから期待される作業療法の領域	講義	
第14回	作業療法をとりまく諸制度	講義	
第15回	試験		

評価方法	☒ 試験（70 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（20 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（10 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	作業療法管理学入門 第2版 医歯薬出版株式会社
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること ※各回の振り返りシートは必須課題とする

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学概論	渡邊 俊行	1	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療及び指導を行えるよう、評価法の基本的事項について学ぶ。

◇到達目標

対象者を評価することの意義と目的を知り、基本的な評価と記録ができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、評価の意義と目的	講義	
第2回	評価の対象と課程、国際生活機能分類（ICF）	講義	
第3回	評価の手順、記録・報告	講義	
第4回	面接	講義・演習	
第5回	観察、記録・報告	講義	
第6回	観察、記録の実際	講義・演習	
第7回	評価結果の解釈のしかた、治療計画	講義	
第8回	評価結果の解釈の実際、治療計画	演習	
第9回	形態測定（四肢長）、握力測定	講義・演習	
第10回	形態測定（周径）	講義・演習	
第11回	意識、バイタルサイン	講義・演習	
第12回	バイタルサイン、臨床検査値の読み方	講義・演習	
第13回	COPM	講義	
第14回	COPM の実際	演習	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	■試験（ 70 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 15 %） □小テスト（ %） ■レポート（ 15 %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版（医学書院）
参考図書	
留意事項	形態測定演習時は、上下肢の肌を出すことができる服装で参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 (1)	渡邊 俊行	1	2	後期	必修

◇講義概要

適切な治療及び指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本的事項について学ぶ。
--

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し説明できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	オリエンテーション	講義	
第 2 回	Brunnstrom Test、上田による 12 段階法	講義	
第 3 回	関節可動域測定	講義	
第 4 回	関節可動域測定	講義	
第 5 回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	試験	
第 6 回	摂食・嚥下機能評価	講義	
第 7 回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	試験	
第 8 回	徒手筋力検査法	講義	
第 9 回	徒手筋力検査法	講義	
第 10 回	徒手筋力検査法	講義	
第 11 回	排泄機能評価	講義	
第 12 回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	試験	
第 13 回	反射検査、姿勢反射検査	講義	
第 14 回	認知・知的機能評価	講義	
第 15 回	試験・まとめ	試験	

評価方法	■試験（ 70%） □実技試験（ %） □演習評価（ %） ■小テスト（ 30%） □レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 3 版，医学書院 新 徒手筋力検査法 原著第 10 版，協同医書出版社 PT・OT のための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワークへ主体的に参加する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療及び指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本的事項について学ぶ。
--

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し説明できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義	
第2回	知覚検査	講義	
第3回	知覚検査	講義	
第4回	画像評価、筋緊張検査	講義	
第5回	OSCE（協調性検査・知覚検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第6回	上肢機能検査	講義	
第7回	脳神経検査	講義	
第8回	脳神経検査	講義	
第9回	興味・役割・QOL 検査	講義	
第10回	OSCE（上肢機能検査・脳神経検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第11回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第12回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第13回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第14回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	■試験（70%） ■小テスト（30%）	□実技試験（%） □レポート（%）	□演習評価（%） □その他（%）
------	------------------------	----------------------	---------------------

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版，医学書院 PT・OTのための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワークへ主体的に参加する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学実習 (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	1	後期	必修

◇講義概要

作業療法評価学で学んだ内容を実習を通して学ぶ。

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	演習	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	演習	
第3回	関節可動域測定	演習	
第4回	関節可動域測定	演習	
第5回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	試験	
第6回	摂食・嚥下機能評価	演習	
第7回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	試験	
第8回	徒手筋力検査法	演習	
第9回	徒手筋力検査法	演習	
第10回	徒手筋力検査法	演習	
第11回	排泄機能評価	演習	
第12回	実技試験：OSCE（MMT）、課題：国家試験過去問題	試験	
第13回	反射検査、姿勢反射検査	演習	
第14回	認知・知的機能評価	演習	
第15回	まとめ	講義・演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☒ 実技試験（ 50%） ☒ 演習評価（ 20%） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 30%） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版，医学書院 新 徒手筋力検査法 原著第10版，協同医書出版社 PT・OTのための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	演習では主体的に参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学実習（2）	渡邊 俊行	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法評価学で学んだ内容を実習を通して学ぶ。

◇到達目標

・評価の意義，目的を説明できる ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	演習	
第2回	知覚検査	演習	
第3回	知覚検査	演習	
第4回	画像評価、筋緊張検査	演習	
第5回	OSCE（協調性検査・知覚検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第6回	上肢機能検査	演習	
第7回	脳神経検査	演習	
第8回	脳神経検査	演習	
第9回	興味・役割・QOL 検査	演習	
第10回	OSCE（上肢機能検査・脳神経検査）、課題：国家試験過去問題	試験	
第11回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第12回	疾患別評価：ケーススタディ（中枢疾患）	講義・演習	
第13回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第14回	疾患別評価：ケーススタディ（整形疾患）	講義・演習	
第15回	まとめ	講義・演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☒ 実技試験（ 50%） ☒ 演習評価（ 30%） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20%） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版，医学書院 PT・OTのための画像のみかた，金原出版
参考図書	ベットサイドの神経の診かた，医歯薬出版
留意事項	演習では主体的に参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	森木 紀博	2	4	前期	必修

◇講義概要

身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。

◇到達目標

・各疾患の病態、障害像を理解する ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ ・身障領域の国試問題の理解を深める
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	身体障害領域の実際 症例検討	講義	
第3回	疾患別作業療法 呼吸器疾患	講義	
第4回	疾患別作業療法 呼吸器疾患、糖尿病	講義	
第5回	疾患別作業療法 循環器疾患	講義	
第6回	疾患別作業療法 心電図	講義	
第7回	疾患別作業療法 廃用症候群	講義	
第8回	疾患別作業療法 ギランバレー、筋ジストロフィー	講義	
第9回	疾患別作業療法 多発性硬化症、ALS	講義	
第10回	疾患別作業療法 腱板断裂	講義	
第11回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第12回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第13回	疾患別作業療法 SCD	講義	
第14回	患者モデル評価説明、準備	講義	
第15回	疾患別作業療法 骨折（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第16回	疾患別作業療法 骨折（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第17回	患者モデル評価準備	講義	
第18回	患者モデル評価準備	講義	
第19回	疾患別作業療法 切断（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第20回	疾患別作業療法 切断（奈良学園大学 飯塚照史先生）	講義	
第21回	疾患別作業療法 喀痰吸引（介護福祉学科 澤浦知子先生）	講義	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 22 回	疾患別作業療法 喀痰吸引（介護福祉学科 澤浦知子先生）	講義	
第 23 回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第 24 回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第 25 回	患者モデル評価まとめ	講義	
第 26 回	患者モデル評価まとめ	講義	
第 27 回	患者モデル評価発表準備	講義	
第 28 回	患者モデル評価発表	講義	
第 29 回	患者モデル評価発表フィードバック	講義	
第 30 回	本試験	講義	

評価方法	■試 験（ 20 %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	■小テスト（ 30 %） ■レポート（ 50 %） □その他（ %）

教 科 書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 メジカルビュー社
参考図書	
留意事項	各種疾患学について事前に概要を調べておくこと。評価項目・方法の確認をすること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ（2） （実務経験のある教員等による授業科目）	森木 紀博	2	2	後期	必修

◇講義概要

身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。

◇到達目標

- ・各疾患の病態、障害像を理解する
- ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ
- ・身障領域の国試問題の理解を深める

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	森木
第2回	疾患別作業療法 脳血管障害	講義	
第3回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	講義	済生会滋賀県病院 藤田先生
第4回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	演習	
第5回	疾患別作業治療学 CVA（治療の実際）	講義	森木
第6回	疾患別作業治療学 CVA（症例検討）	講義	
第7回	ADLと作業治療学（起居動作）	講義・演習	森木
第8回	ADLと作業治療学（アクティビティ）	講義・演習	
第9回	ADLと作業治療学（更衣動作）	講義・演習	森木
第10回	ADLと作業治療学（食事動作）	講義・演習	
第11回	疾患別作業治療学 パーキンソン病	講義	大原記念病院 竹内先生
第12回	疾患別作業治療学 ニューロリハビリ	講義	
第13回	物理療法	講義	理学療法学科 歌川先生
第14回	物理療法	講義	
第15回	試験		森木

評価方法	■試験（100％）	□実技試験（％）	□演習評価（％）
	□小テスト（％）	□レポート（％）	□その他（％）

教科書	ゴールドマスターテキスト 身体障害作業療法学 メジカルビュー社
参考図書	
留意事項	授業前の予習および授業後の復習をして授業に臨んでください。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	石川 大	2	4	前期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能的な精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。

◇到達目標

・精神障害を患った対象者の気持ちを想像できるようになる。 ・精神科作業療法の治療構造を理解する。 ・対象者と円滑なコミュニケーションとれるようになり、そこから評価ができるようになる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	精神の病い処遇の歴史と作業療法を理解する	講義	
第2回	身体障害との比較から、精神障害の特性をイメージする	講義	
第3回	精神科作業療法の治療構造を理解できるようになる	講義	
第4回	治療構造をもとにプログラムを立案する	演習	
第5回	作業とはどのような意味があるか考えられるようになる	講義	
第6回	グループワークを通じて、作業分析の様々な視点あることを理解する	演習	
第7回	精神科での他職種の役割を理解する	講義	
第8回	作業を意識的に用いられるようになる	演習	
第9回	作業遂行能力を自己評価できるようになる	講義	
第10回	作業をしながら対象者を評価できるようになる	演習	
第11回	精神障害を患った人とのコミュニケーション力を身につける①	講義	
第12回	精神障害を患った人とのコミュニケーション力を身につける①	演習	
第13回	統合失調症と作業療法について理解する①	講義	
第14回	統合失調症と作業療法について理解する②	演習	
第15回	気分障害と作業療法について理解する①	講義	
第16回	気分障害と作業療法について理解する②	演習	
第17回	神経症圏の障害と作業療法について理解する①	講義	
第18回	神経症圏の障害と作業療法について理解する②	演習	
第19回	中間テスト	演習	
第20回	評価バッテリーを用いて、精神機能の評価を行えるようになる①	演習	
第21回	評価バッテリーを用いて、精神機能の評価を行えるようになる②	講義	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第22回	作業をしながら対象者を評価できるようになる	講義	
第23回	臨床総合実習セミナーに参加し、評価のまとめ方と事例について学ぶ	講義	
第24回	ウォッチングリストを基に、対象者の様子を言語化できるようになる	講義	
第25回	事例を通じて、精神認知機能の評価ができるようになる	講義	
第26回	治療援助手段（評価から焦点化）について考えられるようになる	演習	
第27回	対象者に合わせた作業療法プログラムを立案できるようになる①	講義	
第28回	対象者に合わせた作業療法プログラムを立案できるようになる②	演習	
第29回	作業治療学Ⅱ（1）で学んだことを振り返る	講義	
第30回	試験および解説	試験	

評価方法	■試験（ 60%）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	■小テスト（ 25%）	■レポート（ 15%）	□その他（ %）

教科書	精神障害と作業療法【新版】（三輪書店）
参考図書	作業療法技術ガイド、生活を支援する精神障害作業療法第2版
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	後期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能的な精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。

◇到達目標

- ・精神疾患を抱える人たちの生き方や日々の生活について理解する。
- ・事例を通じて、具体的で現実的な評価や支援できるようになる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	医療観察法と司法精神科作業療法について説明できるようになる。	講義	
第2回	司法精神科作業療法の事例を通じてプログラムを立てる。	演習	
第3回	精神科クリニックと精神科訪問リハの地域での取り組みを学ぶ。	講義	
第4回	精神科訪問リハのプログラムを立案できるようになる。	演習	
第5回	グループダイナミクス論。対象による集団の違いを理解できるようになる。	講義	
第6回	グループダイナミクス論。集団力動を理解できるようになる。体験グループ。	演習	
第7回	事例を通じて、全体像をまとめることができるようになる。	演習	
第8回	中間試験と復習	演習	
第9回	物質関連障害の作業療法について理解する①	講義	
第10回	物質関連障害の作業療法について理解する②	演習	
第11回	各精神疾患の特徴を理解し、疾患に合わせたアプローチができるようになる。	講義	
第12回	認知行動療法を理解できるようになる。	演習	
第13回	精神疾患の回復過程を説明できるようになる。	講義	
第14回	精神疾患の回復過程に合わせた治療を立案できるようになる。	演習	
第15回	試験および解説	演習	

評価方法	☒ 試験 (65%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☒ 小テスト (20%) ☒ レポート (15%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	精神障害と作業療法【新版】 (三輪書店)
参考図書	作業療法技術ガイド、生活を支援する精神障害作業療法第2版
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習復習をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	2	4	前期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。

◇到達目標

①発達期に障害を持つことの意味を理解することができる ②発達障害児者への作業療法評価について学ぶ ③各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを学ぶ ④正常発達を理解し正常発達を促すことができる
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	発達期に障害を持つ意味	講義	
第2回	発達期に障害を意味を脳性麻痺児の歩行を通じて考える	演習	
第3回	発達障害領域の作業療法-定義、対象疾患等	講義	
第4回	子どもの発達と遊び-自分たちの遊び歴を振り返る	講義・演習	
第5回	作業の発達と変容-①作業の定義 ②作業の見方	講義・演習	
第6回	作業の発達と変容-③作業の発達	講義・演習	
第7回	発達障害領域の作業療法評価 - ①概論 ②情報収集と面接・観察の視点	講義・演習	
第8回	発達障害領域の作業療法評価 - ③発達像を把握するための検査	講義・演習	
第9回	発達障害領域の作業療法評価 - ④評価結果の分析と解釈	講義・演習	
第10回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合とは）	講義・演習	
第11回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合的評価）	講義・演習	
第12回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①感覚統合（感覚統合の実践）	講義・演習	
第13回	重症心身障害の作業療法（1）	講義・演習	
第14回	重症心身障害の作業療法（2）	講義・演習	
第15回	自閉症スペクトラム障害の作業療法（1）	講義	池田
第16回	自閉症スペクトラム障害の作業療法（2）	講義	池田
第17回	スイッチ作成実習	演習	中園
第18回	スイッチ作成実習	演習	中園
第19回	重症心身障害の作業療法（3）	演習	
第20回	意欲欠如性多動性障害(ADHD)の作業療法	演習	池田

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 21 回	限局性学習障害 (SLD) の作業療法	講義	池田
第 22 回	重症心身障害の作業療法 (4)	講義・演習	
第 23 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ②TEACCH (理解)	講義・演習	池田
第 24 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ②TEACCH (構造化を探す)	講義・演習	池田
第 25 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ③SST (小児)	講義・演習	池田
第 26 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ③SST (成人)	講義・演習	池田
第 27 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ④CBT (小児)	講義・演習	池田
第 28 回	発達障害に対する代表的な治療法 - ④CBT (成人)	講義・演習	池田
第 29 回	まとめ	講義	
第 30 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試 験 (60 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (40 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ そ の 他 (%)
------	---

教 科 書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第 3 版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	予習・復習を行ってください

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	北野 真奈美	2	2	後期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。

◇到達目標

- ①原始反射・姿勢反応について理解することができる
- ②0－12 か月の正常運動発達について理解することができる
- ③脳性麻痺児のタイプ別の症状について理解することができる
- ④発達期に障害を持った児者に対して必要な評価および治療を考えようとする姿勢が持てる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	正常運動発達の理解 ― ①反射・反応とは ②原始反射について	講義・演習	
第 2 回	正常運動発達の理解 ― ③姿勢反射について	講義・演習	
第 3 回	正常運動発達の理解 ― ③0 - 6 か月の運動発達	講義・演習	
第 4 回	正常運動発達の理解 ― ④7－12 か月の運動発達	講義・演習	
第 5 回	脳性麻痺に対する作業療法（1） ― 脳性麻痺の定義、タイプ別特徴	講義・演習	
第 6 回	脳性麻痺に対する作業療法（2） ― 理解に必要な基礎知識	講義・演習	
第 7 回	脳性麻痺に対する作業療法（3） ― 評価と治療について	講義・演習	
第 8 回	脳性麻痺に対する作業療法（3） ― 評価と治療について	講義・演習	
第 9 回	脳性麻痺に対する作業療法（4） ― 事例から考える	演習	
第 10 回	脳性麻痺に対する作業療法（4） ― 事例から考える	演習	
第 11 回	ビジョントレーニング（1） ― 視覚機能について	講義・演習	
第 12 回	ビジョントレーニング（1） ― 視覚機能について	講義・演習	
第 13 回	ビジョントレーニング（2） ― 視覚機能を伸ばすには	講義・演習	
第 14 回	ビジョントレーニング（3） ― 事例から考える	演習	
第 15 回	試験		

評価方法	■試験（ 60 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 40 %） □小テスト（ %） ■レポート（ %） □その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学第 3 版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	予習・復習をして、授業の理解度を深めるようにしましょう。 講義の進行度合いにより、順序等の変更の可能性があります。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ（Ⅰ） （実務経験のある教員等による授業科目）	島本 良重	2	4	前期	必修 選択

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。

◇到達目標

- ・加齢と老化の違いについて理解し述べることができる（老化に伴う変化）
- ・高齢期の作業療法に必要な評価技能を身につけることができる 標準予防策 血圧・体温・脈拍測定
- ・ライフコースと作業療法について学び、キャリア形成について述べるができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 老年期を中心とした人口問題と作業療法	講義	
第2回	老年期の作業療法で注意すべき疾患とリスク 感染症	講義・演習	
第3回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第4回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第5回	リハビリテーション栄養・摂食具・摂食動作/演習/引用文献の書き方	講義・演習	
第6回	事例作成 ・ジェノグラム作成 ・自助具作成	演習	
第7回	事例作成 ・事例項目分類演習（一般情報、医学的情報、他）	講義・演習	
第8回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第9回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 整形外科疾患 演習問題	講義・演習	
第10回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 整形外科疾患	講義	
第11回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 感染症 標準予防策	講義	
第12回	前半テスト / 事例作成 演習問題2	講義・演習	
第13回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第14回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第15回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第16回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第17回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患	講義・演習	
第18回	事例報告について 実習セミナー案内	講義・演習	
第19回	臨床実習セミナー	演習	
第20回	事例作成 演習問題3	講義・演習	
第21回	制度と作業療法提供施設 見学準備	演習	
第22回	制度と作業療法提供施設 一般企業 納得工房見学	演習	

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

第 23 回	制度と作業療法提供施設 一般企業 納得工房 発表資料作成	講義・演習	
第 24 回	制度と作業療法提供施設 介護系施設 絵画療法（兼元和美）	講義・演習	
第 25 回	制度と作業療法提供施設 介護系施設 絵画療法（兼元和美）	講義・演習	
第 26 回	制度と作業療法提供施設 発表	講義・演習	
第 27 回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第 28 回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第 29 回	中年期および高齢者の健康問題 視覚障害 聴覚障害	講義	
第 30 回	試験	講義・演習	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 10 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 （メジカルビュー社）
参考図書	順次紹介する予定
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	2	後期	必修

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。

◇到達目標

- ・制度と作業療法提供施設について、調べ述べることができる
- ・介護保険や各種サービスの内容について、資料を作成し表現することができる
- ・作業療法の介入について、作業療法過程に基づき評価計画を立案することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	高齢者マネジメント	講義・演習	
第3回	高齢者マネジメント ケアマネジメント フレイルとサルコペニア	講義・演習	
第4回	QOL と健康の増進	講義・演習	
第5回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第6回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第7回	通所の目的とサービス内容 絵画療法	講義・演習	
第8回	通所の目的とサービス内容 ディケア（認知症）（外部講師）	講義・演習	
第9回	入所の目的とサービス内容 介護老人保健施設（外部講師）	講義・演習	
第10回	入所の目的とサービス内容 排泄ケア （外部講師）	講義・演習	
第11回	作業療法による介入 訪問看護ステーション	講義・演習	
第12回	作業療法過程について 入所	講義・演習	
第13回	作業療法過程について 在宅介護を経験した事例	講義・演習	
第14回	作業療法過程について 地域活動 機能訓練事業とその後	講義・演習	
第15回	試験		

評価方法	☒ 試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 20 %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ そ の 他（ %）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 （メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	前期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式と ADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する（リハビリ関連機器を含む）。

◇到達目標

- ・ ADL、IADL とは何か説明することができる
- ・ 基本動作、ADL 動作について模倣することができる
- ・ 代表的な ADL 評価法（特に FIM）を実施することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第 1 回	ADL と IADL の概要	講義	
第 2 回	評価法（1） Barthel Index と FIM	講義・演習	
第 3 回	評価法（2） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 4 回	評価法（3） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 5 回	評価法（4） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 6 回	評価法（5） 機能的自立尺度（FIM）	講義・演習	
第 7 回	基本動作（寝返り、起き上がり）	講義・演習	
第 8 回	基本動作（立ち上がり・車椅子移動/歩行）	講義・演習	
第 9 回	基本動作（移乗 車いす⇄ベッド 車いす⇄トイレ 車いす⇄浴槽）	講義・演習	
第 10 回	ADL（食事・整容）	講義・演習	
第 11 回	ADL（排泄・更衣・入浴）	講義・演習	
第 12 回	IADL（調理）	講義・演習	
第 13 回	IADL（買い物・金銭管理・服薬管理）	講義・演習	
第 14 回	まとめ（FIM おさらい）	講義・演習	
第 15 回	試験	講義	

評価方法	☒ 試験（ 90 %） ☒ 小テスト（ 10 %）	☐ 実技試験（ %） ☐ レポート（ %）	☐ 演習評価（ %） ☐ その他（ %）
------	--	--	---

教科書	・ ADL とその周辺 第3版. 医学書院 ・ 姿勢と動作—ADL その基礎から応用—、メジカルフレンド社
参考図書	適宜紹介する
留意事項	授業には能動的に参加すること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式とADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する（リハビリ関連機器を含む）。

◇到達目標

- ・疾患別のADLの特徴を理解し、それぞれに異なる援助方法を理解する。
- ・ADL訓練における作業療法士の役割と他職種の役割を理解する。
- ・グループワークを通して、積極的に自分の意見を述べるができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	疾患別ADL 脳卒中	講義	
第2回	疾患別ADL 脳卒中	講義	
第3回	疾患別ADL 脊髄損傷	講義	
第4回	疾患別ADL 脊髄損傷	講義	
第5回	疾患別ADL リウマチ	講義	
第6回	疾患別ADL パーキンソン病	講義	
第7回	疾患別ADL 認知症	講義	
第8回	PTのADLリハビリ (言語聴覚士)	講義	
第9回	STのADLリハビリ (言語聴覚士)	講義	
第10回	シーティング (木之瀬隆先生)	講義	
第11回	シーティング (木之瀬隆先生)	講義	
第12回	自助具作製	演習	
第13回	自助具作製	演習	
第14回	自助具作製	演習	
第15回	試験	講義	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	・ADLとその周辺 第3版. 医学書院 ・姿勢と動作—ADL その基礎から応用—、メジカルフレンド社	
参考図書	適宜紹介する	
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。	

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学VI (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

義肢、装具、リハビリテーション関連機能（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び障害）と基礎技能（製作、適合判定、訓練、追跡調査）の実習を行う。

◇到達目標

*車いすシーティングについて説明することができる *義肢・装具の名称や対象疾患(障害)などの基礎知識と適合判定などの基礎技能を身に付ける *基本的なスプリントを作成することができ、対象疾患や使用方法などについて説明することができる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	義肢装具学 総論	講義	
第2回	車いすシーティングとは (ラックヘルスケア株式会社 松岡研太郎先生)	講義・演習	
第3回	車いすシーティングの実際 (ラックヘルスケア株式会社 松岡研太郎先生)	講義・演習	
第4回	上肢切断に対する義手 (日本生命病院 松下卓也先生)	講義・演習	
第5回	上肢切断に対する義手 (実例をもとに考える) (日本生命病院 松下卓也先生)	講義・演習	
第6回	筋電義手とは？ (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義	
第7回	筋電義手の実例 (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義・演習	
第8回	筋電義手の体験 (オットーボック株式会社 八幡済彦先生)	講義・演習	
第9回	スプリントについて (上原尚之先生)	講義・演習	
第10回	スプリント製作実習 (スプリントの構造・デザイン) (上原尚之先生)	演習	
第11回	スプリント製作実習 (装具のチェックアウト) (上原尚之先生)	演習	
第12回	スプリント製作実習 (短対立装具) (上原尚之先生)	演習	
第13回	スプリント製作実習 (カックアップ) (上原尚之先生)	演習	
第14回	スプリント製作実習 (PIP 伸展スプリント) (上原尚之先生)	演習	
第15回	試験 (フィードバック含む)	試験	

評価方法	■試験 (80 %) □実技試験 (%) □演習評価 (%) □小テスト (%) □レポート (%) ■その他 (20 %)
------	---

教科書	義肢装具学 (医学書院)
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅶ	清水 賢二	2	2	後期	必修

◇講義概要

失語、失行、失認、遂行機能障害、注意障害、認知症などの高次脳機能障害を学ぶ。
神経心理学や高次神経活動の基礎を含む。

◇到達目標

高次脳機能とその障害像について理解できる
症状に合わせた検査を選択することができる
作業療法プログラムを立案できるようになる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第 1 回	総論	講義	
第 2 回	脳の機能局在と画像診断	講義	
第 3 回	注意機能障害	講義・演習	
第 4 回	半側空間無視	講義・演習	
第 5 回	失行	講義・演習	
第 6 回	失語、復習	講義・演習	
第 7 回	記憶障害	講義・演習	
第 8 回	記憶障害	講義・演習	
第 9 回	視覚失認、その他の失認	講義・演習	
第 10 回	遂行機能障害、社会行動障害、アパシー	講義・演習	
第 11 回	高次脳機能検査	講義・演習	
第 12 回	総復習	演習・演習	
第 13 回	臨床推論	演習・演習	
第 14 回	臨床推論	講義・演習	
第 15 回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	改訂 2 版 リハビリナース PT、OT、ST のための 患者さんの行動から理解する高次脳機能障害 (メディカ出版)
参考図書	
留意事項	各講義の前後に教科書に目を通し、予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅷ	井上 宜子	2	2	後期	必修

◇講義概要

職業前関連活動の基礎（定義、歴史、作業療法士の役割、職業リハビリテーションと作業療法）と基礎技法（評価、指導計画、指導の実際－職業前訓練を含む）。について学ぶ

◇到達目標

- 1 職業リハビリテーションの基礎知識の取得
- 2 職業リハビリテーションを支える諸制度や施策についての理解する
- 3 障害種別における職業リハビリテーションの実情について理解する
- 4 会社と本人をつなぐ支援機関及びその方法について理解する
- 5 職場で働く障害のある人の状況を理解する（当事者の思いの尊重）
- 6 1～5の理解を踏まえ、職業リハビリテーションにおける評価、計画、モニタリングができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	職業リハビリテーションの概念とプロセス	講義	井上
第2回	就労支援の実際（見学と説明）	見学・講義	井上・安蔵
第3回	就労支援の実際1（身体障害がい）	講義	岡田
第4回	就労支援の実際2（発達障害がい）	講義	藤井
第5回	就労支援の実際3（精神障害がい）	講義	山田
第6回	就労支援の実際4（知的障害がい）	講義	勝股
第7回	障害いの定義と当事者の声	講義	中野・井上
第8回	就業を考える1（障害者就業・生活支援センターについて）	講義	山口
第9回	就業を考える2（ジョブコーチ事業の実際）	講義	藤井
第10回	就業を考える3（特例子会社の見学）	見学・講義	井上
第11回	就業を考える4（その他の支援、就業についてのグループ討議）	講義	井上
第12回	就業を考える生活1（生活支援（グループホーム・地域生活）における実際）	講義	今里
第13回	就業を考える生活2（障害がい者基幹相談支援センターの活動について）	講義	嶋田
第14回	就業を考える生活3（保護者の立場から）	講義	小西
第15回	就業を支える生活4（就労継続支援A型の見学と豊かな老後への支援について）	演習	小西

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） □演習評価（ %）
	□小テスト（ %） ■レポート（ 60 %） ■その他（ 演習レポート 40% ）

教科書	適宜プリントを配布
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習及び復習を行うこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅰ	森木 紀博	1	2	後期	必修

◇講義概要

臨床実習Ⅰに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題を含む。
--

◇到達目標

・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる ・施設の組織や作業療法の位置づけを知る ・観察記録を正しく書く
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	臨床実習Ⅰ（1）オリエンテーション	講義	
第2回	自己紹介文の書き方について	講義	
第3回	実習生の基本的態度について	講義	
第4回	実習生に求められる身だしなみについて （おしゃれと身だしなみの違い）	講義	
第5回	臨床実習で必要な記録について（身障領域）	講義	
第6回	臨床実習で必要な記録について（精神領域）	講義	
第7回	臨床実習で必要なリスク管理（感染について）	演習	
第8回	臨床実習で必要なリスク管理（感染予防について）	講義	
第9回	臨床実習で必要なコミュニケーション技法（説明）	演習	
第10回	臨床実習で必要なコミュニケーション技法（演習）	講義	
第11回	実習中の注意事項（SNS、ハラスメントなど）	講義・演習	
第12回	報連相について	講義・演習	
第13回	メモの取り方について	講義	
第14回	お礼状について	演習	
第15回	試験（フィードバック含む）	試験	

評価方法	☐ 試験（ %） ■実技試験（ 60 %） ■演習評価（ 40 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	授業で配布するプリントを基本とする
参考図書	
留意事項	実習を踏まえて評価技法の確認、講義後の復習・実技練習を進めていくこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅱ	森木 紀博	2	2	後期	必修

◇講義概要

臨床実習Ⅱに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題を含む。
--

◇到達目標

・職業人としての望ましい態度や行動をとることができる ・施設の組織や作業療法の位置づけを知る ・臨床実習Ⅱにおいて担当したケースについて症例報告を行うことができる

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	実習生ガイド（自己紹介、実習に対する希望・抱負）について	講義	
第3回	実習生ガイド（自己紹介、実習に対する希望・抱負）作成	演習	
第4回	実習生の基本的態度について	講義	
第5回	評価とは？（評価の意義）	講義	
第6回	評価とは？（評価の演習）	演習	
第7回	臨床実習で必要な医療接遇（説明）	講義	
第8回	臨床実習で必要な医療接遇（演習）	演習	
第9回	臨床実習で必要な記録について	講義	
第10回	臨床実習で必要な記録作成（SOAPを中心に）	演習	
第11回	臨床実習で必要な評価技法（身体評価）	講義・演習	
第12回	臨床実習で必要な評価技法（ADL評価）	講義・演習	
第13回	臨床実習で必要な評価技法（精神評価）	講義・演習	
第14回	危険予知トレーニング（KYT）（説明）	講義	
第15回	危険予知トレーニング（KYT）（演習）	演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 50 %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 50 %） ☐ その他（ %）
------	--

教科書	授業で配布するプリントを基本とする
参考図書	
留意事項	実習を踏まえて評価技法の確認、講義後の復習・実技練習を進めていくこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅲ (1)	森木 紀博	3	2	前期	必修

◇講義概要

臨床総合実習に向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。
実習前後の課題（準備）を含む。

◇到達目標

- ・実習指導者や対象者に対して礼儀を持って接することができる（挨拶）
- ・疾患特性を理解し、それに合わせた評価項目が列举できる
- ・列举した評価方法の調べ方と必要な準備ができる
- ・各種書面の体裁を整えられる
- ・各種書面の締め切りを遵守し提出できる（遅れる場合は事前相談できる）

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション（実習についてなど）	講義	
第2回	姿勢観察	講義	
第3回	社会人としての身だしなみ、挨拶、コミュニケーション	講義	
第4回	評価の準備（必要性和調べ方）、疾患特性と評価項目	講義	
第5回	デイリーノート、お礼状の書き方について	講義	
第6回	各種検査技術① 関節可動域（上肢）	講義・演習	
第7回	各種検査技術② 関節可動域（下肢）	講義・演習	
第8回	各種検査技術③ CVA の評価	講義・演習	
第9回	対象者の全体像の捉え方（ICF の書き方）	講義	
第10回	SOAP の書き方	講義	
第11回	レジュメの書き方（形式、統合と解釈、プログラム設定）	講義	
第12回	起居動作、移乗動作について	講義・演習	
第13回	医療面接技法（医療面接の必要性） （岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎先生）	講義	
第14回	医療面接技法（医療面接の必要性） （岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎先生）	講義	
第15回	医療面接技法（医療面接の必要性） （岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎先生）	講義・演習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	授業で配布するプリントを基本とする。
参考図書	
留意事項	実習を踏まえて評価技法の確認、講義後の復習・実技練習を進めていくこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習技能評価Ⅲ（2）	森木 紀博	3	2	後期	必修

◇講義概要

臨床総合実習に向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。 実習前後の課題（準備）を含む。

◇到達目標

・臨床実習における評価の重要性を知り、自分の言葉で他者に伝えることができる ・社会人として求められる身だしなみ、礼節を理解し、実行できる ・典型的な疾患に合わせた評価項目の列挙、評価手段を選択し実施できる ・対象者情報をもとに ICF でまとめることができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	領域別症例検討1（身体障害） 森木	講義	
第3回	領域別症例検討2（発達・精神障害）池田先生	講義	
第4回	領域別症例検討3（精神障害）石川先生	講義	
第5回	領域別症例検討4（精神障害）石川先生	講義	
第6回	基礎知識の確認（解剖学）	講義	
第7回	基礎知識の確認（解剖学）	講義	
第8回	領域別症例検討5（身体障害）渡邊先生	講義	
第9回	領域別症例検討6（身体障害）籠島先生	講義	
第10回	基礎知識の確認（生理学）	講義	
第11回	基礎知識の確認（生理学）	講義	
第12回	領域別症例検討7（老年障害）島本先生	講義	
第13回	領域別症例検討8（発達障害）北野先生	講義	
第14回	基礎知識の確認（運動学）	講義	
第15回	基礎知識の確認（運動学）	講義	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☒ 小テスト（ 30 %） ☒ レポート（ 70 %） ☐ その他（ %）
------	---

教科書	授業で配布するプリントを基本とする。
参考図書	
留意事項	実習を踏まえて評価技法の確認、講義後の復習・実技練習を進めていくこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域作業療法学 (1)	辰己 一彦	2	2	前期	必修

◇講義概要

地域包括ケアシステムや多職種連携の理解など、地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。

◇到達目標

・活動と参加に焦点を置きながら、地域作業療法の支援方法を理解する。 ・地域包括ケアシステムの概要について理解する ・地域作業療法における多職種連携の意義や実際について理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	日本の現状と地域作業療法の必要性	講義	
第2回	地域作業療法実践例	講義	
第3回	地域包括ケアシステムについて	講義	
第4回	地域包括ケアシステムの参画	講義	
第5回	障がい者総合支援法について	講義	
第6回	多職種連携について	講義	
第7回	介護保険について	講義	
第8回	介護支援専門員の役割	講義	
第9回	介護保険ケアプラン検討	講義	
第10回	介護保険ケアプラン検討	講義	
第11回	介護保険ケアプラン作成	講義	
第12回	介護保険ケアプラン作成	講義	
第13回	事例検討ケアプラン発表	講義	
第14回	事例検討ケアプラン発表	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	配布資料
参考図書	地域包括ケアシステム参画の手引き
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
地域作業療法学 (2)	辰己 一彦	2	2	後期	必修

◇講義概要

生活行為向上マネジメントを通じて地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。

◇到達目標

・活動と参加に焦点を置きながら、地域作業療法の支援方法を理解する。 ・地域作業療法における多職種連携の意義や実際について理解する。
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	就労支援における地域作業療法 「地域における高次脳機能障害支援センターの役割」 (高次脳機能障害支援センター 河地 睦美先生)	講義	
第2回	「地域における脳外傷者の実際」 (奈良脳外傷友の会あすか 大久保 康子先生)	講義	
第3回	「地域における口腔ケアの実際」 (元気なお口研究会まほろば 渡邊 由紀子先生)	講義	
第4回	「地域における口腔ケアの実際」 (元気なお口研究会まほろば 渡邊 由紀子先生)	講義	
第5回	「在宅歯科の実際」 (医療法人和光会 渡邊 由紀子先生)	講義	
第6回	「在宅歯科の実際」 (医療法人和光会 渡邊 由紀子先生)	講義	
第7回	生活行為向上マネジメントについて 概論	講義	
第8回	生活行為向上マネジメントについて 概論	講義	
第9回	生活行為向上マネジメントについて 支援事例	講義	
第10回	生活行為向上マネジメントについて 支援事例	講義	
第11回	生活行為向上マネジメントについて 実践1	講義	
第12回	生活行為向上マネジメントについて 実践2	講義	
第13回	生活行為向上マネジメントについて (発表)	講義	
第14回	生活行為向上マネジメントについて (発表)	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	☒ 試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	配布資料 作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント 改訂第4版 (日本作業療法士協会)
参考図書	生活行為向上マネジメント実践マニュアル 第2版
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅰ（Ⅰ）	石川 大	1	2	前期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について実際の作業療法の場面の見学を行う。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。

◇到達目標

- ・職業人としての常識的態度を身につける
- ・責任ある行動を身につける
- ・意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける
- ・デイリーノートや観察記録を正しく書くことができる
- ・見学した施設の特徴と作業療法士の役割について理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
5日間 × 2施設	臨床実習施設における見学実習 ◇施設見学 ・施設全体を見学することで、施設の特徴と役割や多職種連携を学ぶ ◇作業療法場面の見学 ・作業療法の対象となる疾患や障害を学ぶとともに、作業療法士の役割を見学により学ぶ ・作業療法士の治療場面を見学し、目的などについて考え、デイリーノートおよび観察記録に記録する ◇対象者との簡単なコミュニケーション ・対象者の方とコミュニケーションを行わせていただき、事前に学内で学んだ礼節ある態度の実践を行う ・実際に会話した内容については観察記録に記録する	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 30 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（セミナー・学内評価 70%）
------	---

教科書	なし
参考図書	なし
留意事項	臨床実習の手引きに則るため、事前に手引きをよく読み理解すること 新型コロナウイルス感染症の状況により、学内実習に変更することもあり得る

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅰ（2）	石川 大	1	2	後期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について実際の作業療法の場面の見学を行う。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。

◇到達目標

- ・職業人としての常識的態度を身につける
- ・責任ある行動を身につける
- ・意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける
- ・デイリーノートや観察記録を正しく書くことができる
- ・見学した施設の特徴と作業療法士の役割について理解する

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
5日間 × 2施設	臨床実習施設における見学実習 ◇施設見学 ・施設全体を見学することで、施設の特徴と役割や多職種連携を学ぶ ◇作業療法場面の見学 ・作業療法の対象となる疾患や障害を学ぶとともに、作業療法士の役割を見学により学ぶ ・作業療法士の治療場面を見学し、目的などについて考え、デイリーノートおよび観察記録に記録する ◇対象者との簡単なコミュニケーション ・対象者の方とコミュニケーションを行わせていただき、事前に学内で学んだ礼節ある態度の実践を行う ・実際に会話した内容については観察記録に記録する	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 30%） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（セミナー・学内評価 70%）
------	---

教科書	なし
参考図書	なし
留意事項	臨床実習の手引きに則るため、事前に手引きをよく読み理解すること 新型コロナウイルス感染症の状況により、学内実習に変更することもあり得る

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習 I (3)	森木 紀博	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について実際の作業療法の場面の見学を行う。実習施設は身体障害（児）施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。

◇到達目標

職業人としての基本的態度が取れる。 専門的な見地から対象者に接することができる。

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
5 日間 × 1 施設	実習施設にて 施設見学 作業療法の見学 対象者との簡単なコミュニケーション デイリーレポート作成 観察記録作成	実習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☒ その他（提出物 20 %)
------	---

教科書	
参考図書	
留意事項	実習中は自宅学習 2 時間。臨床での実習で 60%以上が必要となる。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床実習Ⅱ	森木 紀博	2	4	後期	必修

◇講義概要

作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握するための作業療法評価について学ぶ。実習施設は身体障害者（児）施設、老人施設、精神科病院等である。

◇到達目標

- *職業人としての基本的態度を取ることができる。
- *専門的な見地から対象者に接することができる。
- *教育課程で学んだ評価の手順を、作業療法臨床場面において実施することができる。
- *担当ケースについて、臨床実習終了後に行われるセミナーで発表できる形にまとめることができる。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
20 日間 × 1 施設	学内にて オリエンテーション 検査・評価法の理解と実技練習 実習セミナー（ケースカンファレンス） 実習施設にて 施設見学，担当ケース紹介 担当ケース初期評価 （情報収集，作業療法評価，焦点化，治療目標・計画設定） レジュメ作成	実習	

評価方法	☐ 試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 演習評価（ 30 % ） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ その他（実習セミナー・OSCE 70 %）
------	---

教科書	
参考図書	
留意事項	臨床での実習、実習セミナー、OSCE の各項目で 60%以上が必要となる。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習Ⅰ	渡邊 俊行	3	8	前期	必修

◇講義概要

身体障害・精神障害・発達障害・老年期のいずれか一施設において、9週間の実習を行う。作業療法士の指導のもと、対象者の身体的・心理的・社会的状況を評価し、初期評価としてまとめ、治療を行う。その経過を踏まえて再評価をまとめる。実習後、学内にてセミナー発表を行う。
--

◇到達目標

臨床実習Ⅱの成果を踏まえ、評価の手順を理解し、実施し、まとめることができる。 基本的な治療プログラムを実施できる。 治療経過を振り返って再評価を行うことができる。 実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
40日間 × 1施設	実習施設にて 施設見学, 担当ケース紹介 担当ケース初期評価 (情報収集, 作業療法評価, 焦点化, 治療目標・計画設定) 治療実施 再評価, 考察 レジュメ作成 学内にて オリエンテーション 検査・評価法の理解と実技練習 実習セミナー(ケースカンファレンス)	実習	

評価方法	☐ 試験(%) ☐ 実技試験(%) ☒ 演習評価(30%) ☐ 小テスト(%) ☐ レポート(%) ☒ その他(実習セミナー／OSCE 70%)
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	各項目60%以上を合格とする

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
臨床総合実習Ⅱ	渡邊 俊行	3	8	後期	必修

◇講義概要

身体障害・精神障害・発達障害・老年期のいずれか一施設において、9週間の実習を行う。作業療法士の指導のもと、対象者の身体的・心理的・社会的状況を評価し、初期評価としてまとめ、治療を行う。その経過を踏まえて再評価をまとめる。最後の実習にふさわしく、即戦力となる作業療法士を目指す。実習後、学内にてセミナー発表を行う。

◇到達目標

臨床実習Ⅱ・臨床総合実習Ⅰの成果を踏まえ、評価の手順を理解し、実施し、まとめることができる。
基本的な治療プログラムを実施できる。
治療経過を振り返って再評価を行うことができる。
実習施設における書類管理や単位管理などの作業療法業務全般を理解する。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
40日間 × 1施設	実習施設にて 施設見学, 担当ケース紹介 担当ケース初期評価 (情報収集, 作業療法評価, 焦点化, 治療目標・計画設定) 治療実施 再評価, 考察 レジュメ作成 学内にて オリエンテーション 検査・評価法の理解と実技練習 実習セミナー (ケースカンファレンス)	実習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☒ その他 (実習セミナー／OSCE 70%)
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	各項目 60%以上を合格とする

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スタディ・スキルズ (1)	島本 良重	1	1	前期	選択必修

◇講義概要

学生として「学ぶ」ためには、基本的な「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」等が必要である。それらの力を身につけるため段階的に学ぶ。

◇到達目標

- ・タイム・マネジメントの技術を身につける(目標を設定する, スケジュールをたてる)
- ・講義ノートをとるスキルを身につける
- ・テキストに応じて読み方をかえる
- ・パソコンで作成したレポートが作成できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	ノート・ティキング (講義に応じたノート・ティキング, メモ)	講義・演習	
第2回	リーディングの基本スキル (テキストの種類, 読みの種類, マーキング)	講義・演習	
第3回	アカデミック・ライティングの基本スキル (レポートの書き方等)	講義・演習	
第4回	文書作成 Word の基礎・入門 (中園正吾先生)	講義・演習	2階 PC 室
第5回	文書作成 Word の活用 (中園正吾先生)	講義・演習	2階 PC 室
第6回	文書作成 Word の活用 (2) レポート作成 (中園正吾先生)	講義・演習	2階 PC 室
第7回	試験 Word でレポート作成 (中園正吾先生)	講義・演習	2階 PC 室
第8回	タイム・マネジメント (年間目標と週間スケジュールの設定)	講義・演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (30 %) ☒ 小テスト (20 %) ☒ レポート (50 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	知へのステップ 第5版 大学生からのスタディ・スキルズ (くろしお出版) 必要に応じ資料配布を行う。
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、授業前後に予習復習や資料整理をすること。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スタディ・スキルズ (2)	島本 良重	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

学生として「学ぶ」ためには、基本的な「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」等が必要である。それらの力を身につけるため段階的に学ぶ。

◇到達目標

- ・必要とされる情報を文献やweb検索で収集することができる
- ・アカデミック・ライティング（情報収集・検索の方法，情報の整理，論文作法→引用のつけ方・注・参考文献の書き方）ができる
- ・プレゼンテーションの基本スキルを身につけプレゼンテーションすることができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	プレゼンテーションについて総論 引用のつけ方など	講義・演習	
第2回	プレゼンテーションの基本スキル	講義・演習	
第3回	Power Point の基礎 構成 (中園正吾先生)	講義・演習	2階PC室
第4回	Power Point の基礎 UD フォント，色彩，表，図 (中園正吾先生)	講義・演習	2階PC室
第5回	Power Point の応用 アニメーション (中園正吾先生)	講義・演習	2階PC室
第6回	Power Point のまとめ 発表者ツール作成 (中園正吾先生)	講義・演習	2階PC室
第7回	発表 (前半)	講義・演習	
第8回	発表 (前半)	講義・演習	

評価方法	☒ 試験 (50 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (20 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (30 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	知へのステップ 第5版 大学生からのスタディ・スキルズ (くろしお出版) 配布資料
参考図書	
留意事項	授業理解のために、授業前後に予習、復習や資料整理をすること

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
スポーツ・レクリエーション	中西 信之	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

レクリエーションの基本的な理解を踏まえて、健康寿命の延伸に向けてスポーツ未実施者に向けてからだを動かすことの喜びと健康的な社会生活の構築を図ることのできる指導者養成を目的とする。

◇到達目標

スポーツレクリエーションの考え方を理解し健康生活を図るリーダー育成を習得する
--

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	スポーツレクリエーション概論について	講義演習	
第2回	スポーツレクリエーション生理学と参加促進について	講義演習	
第3回	スポーツレクリエーション心理学と動機付け技術	講義演習	
第4回	スポーツレクリエーション参加促進法	講義演習	
第5回	継続のための場づくり	講義演習	
第6回	動機付けの支援技術	講義演習	
第7回	動機付けの支援技術(レク式体力支援実技)	講義演習	
第8回	安全管理と行政のしくみ	講義演習	

評価方法	□定期試験 (%)	□実技試験 (%)	■演習評価 (80 %)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	■その他 (20 %)

教科書	なし
参考図書	適宜配布
留意事項	課程認定校につき資格取得ができる

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

レクリエーションの意義・役割を理解する。

◇到達目標

レクリエーションの概論が理解できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	レクリエーション概論について	講義・演習	
第2回	楽しさと心の元気づくりの理論(集団心理とレク支援)	講義	
第3回	レクリエーション支援理論について(集団の特性と支援方法)	講義	
第4回	レクリエーション支援の方法(集団レク実践)	演習	
第5回	レクリエーション支援の方法(ものづくりから遊びへの誘い)	演習	
第6回	現場でのレクリエーション支援レポート	講義	
第7回	レクリエーションの支援の方法(音楽療法の理解)	講義演習	
第8回	レクリエーションの支援の方法(音楽療法の演習)	演習	

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (100%) ☐ その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	適宜印刷配布
留意事項	資格取得科目につきレクリエーション現場実習を課す

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
障害者スポーツ論 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	後期	選択必修

◇講義概要

障がい者スポーツについて学び、障がい者スポーツのあり方を理解する。 (障がい者スポーツ初級指導員 資格取得科目 課程認定校に付きその他必要要件あり)

◇到達目標

医療従事者として障害者スポーツの関わり方を理解できる

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	障がい者スポーツに意義と理念・障害者スポーツに関する諸施策	講義	橋本
第2回	障がい者スポーツ大会の概要・日本障がい者スポーツの資格制度	講義・演習	橋本
第3回	コミュニケーションスキルの基礎	講義演習	中西
第4回	障がい者スポーツの理解	講義	中西
第5回	各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫	演習	中西
第6回	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	演習	中西
第7回	障害者スポーツ推進の取り組み	講義・演習	中西
第8回	障がい者スポーツ実践者との交流 レポート作成	演習	中西

評価方法	☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 演習評価 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (80 %) ☒ その他 (20 %)
------	---

教科書	なし
参考図書	適時印刷配布
留意事項	障がい者スポーツ初級指導員取得科目 (資格は最終学年に卒業見込み者)

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法理論概論	渡邊 俊行	2	1	後期	選択必修

◇講義概要

作業療法理論の歴史的な流れと現在の代表的な作業療法モデルについて学ぶ。

◇到達目標

作業療法の歴史と理論を確認し、今後の臨床での経験を解釈する基礎を作る。

◇授業計画

回 数	内容	講義形態	備考
第1回	作業療法の理論とは	講義	
第2回	作業療法理論と臨床実践	講義	
第3回	理論の紹介と実践（作業科学）	講義・演習	
第4回	理論の紹介と実践（作業科学）	講義・演習	
第5回	理論の紹介と実践（人間作業モデル）	講義・演習	
第6回	理論の紹介と実践（人間作業モデル）	講義・演習	
第7回	理論の紹介と実践（川モデル）	講義・演習	
第8回	理論の紹介と実践（川モデル）	講義・演習	

評価方法	□試験（ %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20%） □小テスト（ %） ■レポート（ 50%） ■その他（提出物 30%）
------	--

教科書	5W1H でわかりやすく学べる 作業療法理論の教科書 （メジカルビュー社）
参考図書	適宜紹介する。
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワークへ主体的に参加する。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
補完代替療法概論	池田 沙弥香	2	1	後期	選択必修

◇講義概要

音楽・絵画・園芸・動物等を用いた治療法の概略を学ぶ。

◇到達目標

・補完代替療法とは何かと、その効果について理解することができる ・補完代替療法に使用される治療法について、体験を通して学ぶ
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	補完代替療法とは (コンパニオンアニマル：犬)	講義	
第2回	動物介在療法 (コンパニオンアニマル：犬)	講義・演習	
第3回	絵画療法	講義・演習	
第4回	スヌーズレン	講義・演習	
第5回	園芸療法とは (外部講師、コンパニオンアニマル：犬)	講義・演習	
第6回	園芸療法の実践方法 (外部講師、コンパニオンアニマル：犬)	演習	
第7回	音楽療法とは (外部講師)	演習	
第8回	音楽療法の体験 (外部講師)	演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (75 %) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (25 %) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	プリント配布
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業後に復習を行うこと

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
卒業論文	渡邊 俊行	3	1	後期	選択必修

◇講義概要

臨床総合実習の担当ケース・レポートを論文の形式にまとめることで、学会発表等の予備訓練を行う。
--

◇到達目標

- 論文とはどのようなものか、レポートとの違いを理解できる。 - 論文の基本的構成をふまえて、作成することができる
--

◇授業計画

回 数	内 容	講義形態	備考
第1回	論文とレポートの違いについて ・ 論文の基本的構成	講義	
第2回	論文作成の手順	講義・演習	
第3回	表記や引用のしかた ・ 引用、参考文献の書き方	講義・演習	
第4回	論文作成	演習	
第5回	論文作成	演習	
第6回	論文作成	演習	
第7回	論文作成	演習	
第8回	論文作成	演習	

評価方法	☐ 試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☒ 演習評価 (100 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ その他 (%)
------	--

教科書	
参考図書	
留意事項	臨床実習で担当したケースを論文としてまとめるため、必要資料を準備して臨むこと。

令和5年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法総合演習	北野 真奈美	3	3	後期	選択必修

◇講義概要

基礎医学・臨床医学・作業療法専門科目の知識の確認と習得を行い、国家試験に備える。
--

◇到達目標

国家試験の出題範囲を網羅した試験において合格点に達することができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 専門問題①	講義	
第2回	専門問題②	講義	
第3回	専門問題③	講義	
第4回	専門問題④	講義	
第5回	専門問題⑤	講義	
第6回	専門問題⑥	講義	
第7回	専門問題⑦	講義	
第8回	専門基礎問題①	講義	
第9回	専門基礎問題②	講義	
第10回	共通問題①	講義	
第11回	専門基礎問題③	講義	
第12回	専門基礎問題④	講義	
第13回	共通問題②	講義	
第14回	共通問題③	講義	
第15回	共通問題④	講義	
第16回	専門基礎問題⑤	講義	
第17回	専門基礎問題⑥	講義	
第18回	共通問題⑤	講義	
第19回	共通問題⑥	講義	
第20回	共通問題⑦	講義	
第21回	共通問題⑧	講義	
第22回	共通問題⑨	講義	

令和 5 年度 作業療法学科 シラバス

回 数	内 容	講義形態	備考
第 23 回	共通問題⑩	講義	
第 24 回	定期試験	試験	

評価方法	☒ 試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 演習評価（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ そ の 他（中間試験 30 %）
------	---

教科書	・クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2024 共通問題第 16 版 ・クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士国家試験問題解説 2024 専門問題第 17 版 （株式会社 メディックメディア）
参考図書	
留意事項	内部教員が講義を担当するため、教科書の順序とは変更があるので、留意すること。 また、講義に際しては、予習復習はしっかりと行い、積極的な姿勢で参加すること。